

観光学部カリキュラム・マップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 社会人として必要な倫理観を有し、観光および社会についての基本的な知識を修め、適切に理解し、活用することができる。
- DP 2 多様な背景や価値観、文化を持つ人々を理解する教養を身に付け、語学力や情報リテラシーを活用して、グローバルな視点を持って適切に行動することができる。
- DP 3 コミュニケーション能力を備え、他者理解の上に立つ共感力や合意形成力を発揮し、持続可能な社会の構築に向けて連携・協働することができる。
- DP 4 現場での経験を通して培ったやり抜く力と実践力をもって、主体的に課題発見と問題解決に向けて行動することができる。
- DP 5 生涯にわたって自己研鑽を重ね、社会の求める知識や技能を高めながら、観光の新しい価値の創出に努めることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
1	全学部共通基盤科目群	アカデミック・スキルズ	1	選択					本講義は、大学生生活のスタートを支える基盤づくりとして位置づけている。学びの姿勢やスキルを身につけることで、今後の専門的な学習にもつながる内容となっており、ライフデザインやキャリアデザインへの理解を深める。また、授業マナーや情報交換のルール、メール・レポートの書き方などのスタディスキルを習得するとともに、今後の学びを支える力を育成するものである。留学生支援クラスも開講する。		◎			○
2	全学部共通基盤科目群	自然科学概論	2	選択			○		人間は古来、我々を取り巻く自然の理解に努めてきた。本講義では、歴史を振り返りつつ、人類が到達した現在の自然観について、目に見えない極微の世界から等身大のスケール、更に銀河・宇宙などの極大の世界に至るまでを概説する。自然と人間について深く考える姿勢を培い、3.11後を生きるための基礎的知識を身に付けることを目標とする。	○				
3	全学部共通基盤科目群	生命現象の理解とその応用-生命科学	2	選択					生命科学は現代人にとり必須の教養であるが、研究や開発のスピードが極めて速いため一般には学ぶ機会が少ない。本講義では、生命の仕組みと、生物の多様性の創出メカニズムについて、生命の本質を科学の視点から理解する。そのうえで、遺伝子工学や細胞工学などを中心に、ガン治療、生殖医療、ワクチン等予防医学などの先進的な医療や食糧増産技術など、我々の生活に活用されている生命科学の応用技術についての基礎知識を学ぶ。	○				
4	全学部共通基盤科目群	生物からみた環境の仕組み・生態学	2	選択					地球環境を支える「自然」の仕組みを理解するうえで重要な生態学 (Ecology)の基礎を学ぶ。生態系の構成要素やその機能、様々な生物の生活史 (生きざま)を知り、生物の多様性やその創出機構、そして生物が我々の「環境」をどのように支えているのかを理解する。特に、生物が互いに影響を与える生物間相互作用の重要性に着目し、「生態系の中での人間」という視点から環境問題を考えるきっかけとしたい。	○				
5	全学部共通基盤科目群	食環境論	2	選択					食品衛生行政、食育、食中毒等について学び、「安全・安心な食」とは何かを考える。また、SDGs (持続可能な開発目標)、フードテック、食品廃棄、プラスチック問題、食料危機等の近年の国際的な取り組みや課題について理解を深め、私たちを取り巻く食環境をどのように持続可能なものにしていけばよいのかを考える。なお、毎回講義内容をマインドマップの手法を用いてノートにまとめ、事前・事後学習に役立てる。	○				
6	全学部共通基盤科目群	香りと環境	2	選択	○				私たちを取り巻く環境にはさまざまな香り、においが存在している。異なる視点から香りやにおいをテーマに取り上げた新聞記事を読み、その作用や役割を考える。毎回、事前学習・事後学習で自身の意見をワークシートにまとめる。また、香りに関する自身の経験を振り返ったり、香りを生かすアイデアを提案したりする機会を設け、香りやにおいにもつ可能性を探る。	○				
7	全学部共通基盤科目群	身体を理解	2	選択					ヒトの身体は様々な器官が相互に関連して成り立っている。これらの器官が複雑に、協調しながら運動は起こっている。この授業ではヒトの身体の構造や動きについて学ぶとともに、運動を起こす骨や筋について理解する。	○				
8	全学部共通基盤科目群	デジタルアプリA	2	選択		○			本講義は、ICTの基礎的なスキルを修得することが目標である。具体的にはPC初心者向けにMicrosoftOfficeの基本的な操作方法を学習する。具体的には大学のPCを使用し、Word、Excel、PowerPointの基本的な操作方法を身につける。本講義では、教員からアプリケーションの機能を説明した後、学習者が自らパソコンを操作し、操作上の不明点を教員がサポートする形で進めてゆく。		○			
9	全学部共通基盤科目群	デジタルアプリB	2	選択		○			本講義は、コンピューターの基本操作・データの保存と管理といった情報処理の基礎と、適切に情報を扱うための情報倫理を学ぶ。具体的にはWord、Excelの活用を継続し、PowerPointの操作を軸に据えてMicrosoft 365が提供するソフトウェアを活用する。さらに、レポートとプレゼンテーションの文書・資料を作成する際の実践的なスキルの上から自ら取り組む。		○			
10	全学部共通基盤科目群	情報セキュリティA	2	選択	○				インターネットを中核とするITが企業の活動に深く浸透することに伴い、適切な情報セキュリティの確保は企業が有効かつ効率的に活動するにあたっての前提条件となってきている。情報セキュリティを体系的に把握し、情報セキュリティにおける脅威や脆弱性、最新の技術動向、関連法制度、関連する情報システムなどを踏まえ、具体的な情報セキュリティマネジメントについて理解する。		○			
11	全学部共通基盤科目群	情報社会と情報倫理	2	選択					メディアが社会に与える影響、情報倫理、多様性、プライバシーといった現代の倫理的課題を考察する。また、コンテンツの創作・利用に関わる著作権、肖像権、知的財産権等の法的基礎知識を学び、クリエイターとしての社会的責任を養う。		○			
12	全学部共通基盤科目群	人工知能論	2	選択					AI (人工知能)の基本原理と、AIGC (AI Generated Content)を含むメディア芸術における多様な活用事例を概観する。AI技術が社会やクリエイティブ活動に与える影響を理解し、その倫理的側面について基礎的な知識を習得する。		○			
13	全学部共通基盤科目群	データサイエンスI	2	必修	○	○	○		本講義では、データサイエンスをはじめ学ぶ学生を対象に、データサイエンスの導入、基礎、心得の3つを学ぶ。導入では、近年のデータサイエンスやAIの発展やしきみを学ぶ。基礎では、Excelによるデータ演習を実践する。心得では、データを活用する際の留意事項を学ぶ。最後にはデータをプロジェクトを実践することで、AI時代に必須のデータサイエンス・リテラシーの習得を目指す。		◎			
14	全学部共通基盤科目群	データサイエンスII	2	選択		○	○	○	本講義では、データサイエンスIで学んだ内容をもとに、プログラミングの基礎とデータ分析の実践を学ぶ。データサイエンスで主流のRを用いてプログラミングを学びながら、実際のデータ分析事例を題材にデータサイエンスの実践を行う。実際に手を動かささまざまなデータ分析を行うことで、データサイエンティストとして第1歩を踏み出すことを目指す。		○			
15	全学部共通基盤科目群	モデル化とシミュレーション	2	選択				○	コンピュータの演算能力の向上と記憶容量の大規模化に後押しされ、コンピュータシミュレーションは天気予報や地球温暖化予測などの自然科学分野だけでなく、物流の最適化や株価変動、災害時の人間の行動予測などの社会問題にも幅広く応用され、大きな成果を上げている。本授業では、社会科学と自然科学の分野から幾つかの問題を取り上げて、コンピュータシミュレーションによる問題解決の実際を学ぶ。		○			
16	全学部共通基盤科目群	プログラミングA	2	選択				○	この授業では、Pythonというプログラミング言語を用いて、プログラミングの基礎を一から学修する。Pythonの利用方法や特徴、基本的な用語の説明から入り、基本的な入力操作や、if文やmatch文を使ったプログラムの流れを制御するための分岐構造、複雑な条件分岐における入れ子構造、while文やfor文を使ったプログラムの繰り返し処理や多重ループなどについて学修する。		○			
17	全学部共通基盤科目群	アルゴリズムA	2	選択				○	本講義では、学習初心者を対象にアルゴリズムとは何かから初めて、アルゴリズムの基礎的事項を教授する。まず、データ構造 (変数・リスト・配列・スタック・キュー・木構造など)とアルゴリズムとの関係性を学ぶ。次に、データ探索 (順次探索法・番兵法・二分探索法など)を例に基本アルゴリズムと処理効率について考える。		○			
18	全学部共通基盤科目群	情報システム論	2	選択	○			○	情報システムは、経営戦略を考える上で核的な役割を担っており、その重要性は増すばかりである。また、情報システムを成り立たせている情報通信技術 (ICT)の進歩は著しい。この進歩を支えられて急速に業績を伸ばす企業が経済を牽引する存在になっている。そこで本授業は、経営情報基礎論で学んだコンピュータに関する知識を復習しながら、より発展した詳しく情報システム内容について知識を深める。		○			

観光学部カリキュラム・マップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 社会人として必要な倫理観を有し、観光および社会についての基本的な知識を修め、適切に理解し、活用することができる。
- DP 2 多様な背景や価値観、文化を持つ人々を理解する教養を身に付け、語学力や情報リテラシーを活用して、グローバルな視点を持って適切に行動することができる。
- DP 3 コミュニケーション能力を備え、他者理解の上に立つ共感力や合意形成力を発揮し、持続可能な社会の構築に向けて連携・協働することができる。
- DP 4 現場での経験を通して培ったやり抜く力と実践力をもって、主体的に課題発見と問題解決に向けて行動することができる。
- DP 5 生涯にわたって自己研鑽を重ね、社会の求める知識や技能を高めながら、観光の新しい価値の創出に努めることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
19	全学部共通基盤科目群	統計学	2	選択	○				統計的なものの考え方を理解し、統計データ解析のための基礎的な手法を習得する。1. 記述統計の基礎：平均値、グラフ化など、統計データの記述・整理の方法の基礎を習得する。2. 確率変数と確率分布：統計モデルを定式化するために必要不可欠である確率変数と確率分布の基礎を理解する。3. 推測統計の基礎：主に、母集団分布として正規分布と二項分布を仮定した場合における統計的推定法の基礎を習得する。		○			
20	全学部共通基盤科目群	データ分析の基礎(解析)	2	選択				○	本授業では、微分積分の基本概念を学び、数学的な計算力を養う。前半では、等差数列・等比数列を中心に数列の一般項や和の計算を学び、数列の極限について理解を深める。次に、関数の極限や微分法を学び、関数の変化の特徴を数学的に捉える手法を修得する。後半では、積分法を学び、不定積分・定積分の計算を通じて、面積や体積の求め方を修得する。		○			
21	全学部共通基盤科目群	データ分析の基礎(線形代数)	2	選択				○	本授業では、線形代数の基礎として行列の計算方法とその応用を学ぶ。前半では、行列の基本的な用語を理解し、行列の簡約化や行基本変形を用いた連立1次方程式の解法を修得する。次に、行列の演算（和、スカラー倍、積）や逆行列、行列式の計算を学び、行列の性質を分析する基礎力を養う。後半では、行列の応用として産業連関分析やMarkov連鎖を学び、行列を用いた数値モデリングの基礎を修得する。		○			
22	全学部共通基盤科目群	インターネット配信	2	選択					急速に普及したインターネット動画配信を対象に、その特性と可能性を理解し、効果的な活用法を探究することを目的とする。専用機材や汎用機材を用いたストリーミング配信の企画・構成・運営を初歩から応用まで学び、映像メディアの新たな表現形態を実際に体験的に理解する。さらに、実際の生配信制作を通じて、情報発信の実践力を獲得し、現代のメディア環境に対応できる知識と応用力を養う。		○			
23	全学部共通基盤科目群	観光の現在と未来	2	必修	○				本講義は、観光が求められる現代的意義を理解し、観光の多様性と社会との関わりについて学修することが目的である。そのため、講義は様々な分野の教員が担当するオムニバス形式で展開する。人類学や行動論などの切り口から学ぶとともに、地域社会に存在する様々な観光資源（芸術、健康、自然など）や、観光と社会の関わり（ビジネス、まちづくり、メディア）についての事象を取り上げ、観光学への理解を深める。	◎				○
24	全学部共通基盤科目群	ヘルスツーリズム	2	選択					少子高齢化社会を迎え、健康づくりが「個人生活の質」から「地域・環境の質」まで求められており、新しい健康観・ウェルネスが提唱されている。本講義では、健康増進や環境及び地域文化とのかかわりで心身を癒す広義のヘルスツーリズムの概念を理解し、生涯に渡って、ウェルネスの考え方、ウェルネスのライフスタイルを維持するため基礎知識を身につけることを目的とする。	◎				○
25	全学部共通基盤科目群	社会心理学	2	選択					本講義ではまず、自己概念や自己意識などに関する捉え方を学ぶことで私たちが他者から影響を受けていることを理解する。その上で、対人認知や印象形成など他者をどのように認知するのか、他者とのかかわりはどのように作られていくのかということについて心理学的な観点から理解していく。さらに私たちが集団の中でどのように行動するのか、集団における心理についても理解を深める。	○				
26	全学部共通基盤科目群	生活と文化	2	選択					私たちは古来から育まれてきた日本の文化を受け継いで生活している。また、日々の生活を通して日本の文化、地域の文化、家族の文化を紡いでいる。授業では、共生社会の基本的理念と課題を学び、少子高齢化社会の市民生活の動向とライフスタイルの変化を考察し、具体的事例を通してその方向性と課題について、講義および振り返りによって理解を深める。	○				
27	全学部共通基盤科目群	生涯スポーツ概論	2	選択	○				生涯スポーツとは、スポーツを通じて生活の質の向上を目指し、個人のライフスタイルに応じた運動やスポーツを生涯にわたって楽しむことである。本授業では、スポーツについて人文科学（歴史）、社会科学（国の政策）、自然科学（人体の構造や機能）などの観点から理解を深めるとともに、運動やスポーツを実践するための基礎的なトレーニング方法を学ぶ。	○				
28	全学部共通基盤科目群	スポーツ社会学	2	選択	○				現在、我々が慣れ親しんでいる多くのスポーツの原型は、19世紀末イギリスを中心にヨーロッパから世界中に伝えられたものであるが、社会環境の変化にともない、スポーツが社会に果たす役割や意味は変化してきている。本授業では、スポーツやスポーツの歴史を理解した上で、現代社会におけるスポーツの考え方や問題点を明らかにし、各々の問題点について自らの意見を論理的に説明できることを目標とする。	○				
29	全学部共通基盤科目群	ボランティア論	2	選択					この授業では、地域もしくはコミュニティ、ボランティアというキーワードが含みもつ意味を整理した上で、日本における地域社会やボランティアの現状について精査していく。次いで、児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉など福祉の各領域において展開するボランティア、環境ボランティアや災害ボランティアといった様々なボランティアの意義をコミュニティという文脈において整理してみる。最後に地域において展開されるボランティア活動をどう支援し、とりまとめていくかという視点を示し、今後の地域社会におけるボランティアの可能性を考察する。	○				
30	全学部共通基盤科目群	コミュニケーションの基礎	2	選択					現代社会において「コミュニケーション」の重要性は日々高まっていますが、そもそも「コミュニケーション」とはどのような概念・行為として定義できるのでしょうか。本講義では、コミュニケーションが単独で成立するものではなく、常に他者や「メディア」の存在を前提とすることに着目します。その上で、コミュニケーションを支える存在や情報環境について考察するとともに、20世紀半ば以降から現在に至るまで、メディアを通じたコミュニケーションがどのように実証的に捉えられてきたのかを具体的事例とともに検討します。こうした学びを通じて、現代のコミュニケーションを理解するための基礎的な視点を獲得することを目指します。	○				
31	全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトA	2	選択					アートを媒介としたコミュニティの実践を通じて、障がい者と地域の相互理解と関係形成を促進する。アール・ブリュットという既存の美術教育や評価軸にとらわれない自由な表現を活用し、作品展示等の活動の企画・実施・評価を通して、地域課題の把握と解決に向けた実践力および協働的態度を養うとともに、地域共生社会の実現に資する力を育成する。			◎	○	○
32	全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトB	2	選択		○		○	本演習は、地域に沈潜しているさまざまな価値の発掘、磨き上げや課題の解決に取り組むプロジェクトを実施する。参加学生は、ひとりひとりが主体となり、異なる背景を持つ多様な人材、例えば他学部で異なる専門を学んでいるメンバーや、企業や住民などの地域の方々と協働して取り組むことを目指す。また、プロジェクトの企画、運営、実施を通じて、主体性、企画力、想像力、協働的能力を養うことを目的とする。			◎	○	○
33	全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトC	2	選択					デジタル化の進展に伴う高齢者のデジタルデバイドの課題に対し、スマートフォンの活用支援を通じて解決を図る。学生がデジタルコーチとして講習会の企画・実施・評価を行い、利用方法の説明技術および支援力を修得するとともに、高齢者の生活満足度やQOL向上への効果を検証し、地域における実践力と協働的態度を養う。			◎	○	○

観光学部カリキュラム・マップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 社会人として必要な倫理観を有し、観光および社会についての基本的な知識を修め、適切に理解し、活用することができる。
- DP 2 多様な背景や価値観、文化を持つ人々を理解する教養を身に付け、語学力や情報リテラシーを活用して、グローバルな視点を持って適切に行動することができる。
- DP 3 コミュニケーション能力を備え、他者理解の上に立つ共感力や合意形成力を発揮し、持続可能な社会の構築に向けて連携・協働することができる。
- DP 4 現場での経験を通して培ったやり抜く力と実践力をもって、主体的に課題発見と問題解決に向けて行動することができる。
- DP 5 生涯にわたって自己研鑽を重ね、社会の求める知識や技能を高めながら、観光の新しい価値の創出に努めることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
34	全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトD	2	選択					この科目では、東金市のオリーブ産地化を様々な形で応援するプロジェクトを実施します。オリーブの雑学・歴史・栽培から商品化、ヘルスケアなどの効用、地域とのかかわりなどを知り、イベントの企画・運営やオリーブ関連商品の開発を通じ、オリーブ産地化に携わる地域の皆さんと交流し、まちの活性化、地域住民の健康支援などについて考え、解決に向けた取組みを企画・実践します。			◎	○	○
35	全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトE	2	選択					本授業は、地域共生の価値を学び、地域共生社会の実現に向けた課題解決に取り組むプロジェクトである。プロジェクトでは参加学生一人ひとりが主体的に行動し、異なる背景を持つ多様な人々、例えば、他学部の学生や、企業・地域の方々などと協働する。また、プロジェクトの企画、運営、実施を通じて、主体性、企画力、想像力、協働的能力を養う。			◎	○	○
36	全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトF	2	選択		○	○		「競技内容」「競技レベル」「年齢」によるフィジカルレベルや要求能力の違いを体験するとともに、それに応じたエクササイズ指導方法の立案を学び、実践する。若年者～高齢者まで、全年齢を対象に、「健康増進」「障害予防」の重要性を学ぶとともに、ライフステージの変化に応じて必要な機能の違いを学び、また生活を豊かにするために必要となる「運動」について理解する。そして、それらを企画・立案する経験を得る。			◎	○	○
37	全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトG	2	選択					子どもを対象とした防災教育の実践を通じて、地域におけるコミュニティ形成と課題解決を図る。学生が学童保育や放課後等デイサービス等の場で、かるた等を用いた防災教育活動の企画・実施・評価を行い、多様な背景をもつ地域住民や関係機関と協働する中で、創造性およびコミュニケーション能力を高め、地域共生のまちづくりに資する実践力と協働的態度を養う。			◎	○	○
38	全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトH	2	選択					域学共創プロジェクトは、学生が主体となり地域の方々や協働して取り組む。プロジェクトの企画、運営、実施を通じて、主体性、企画力、想像力、協働的能力を養う。当授業は、東金市で古くから行われている祭りや伝統芸能について、実際にそれに関わっている街の人々から学ぶ。また実際に祭りに参加することで、祭りと地域、人々と関わりについて理解を深め、人々との触れ合いを体感することにより地域の一員としての意識を高める。			◎	○	○
39	全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトI	2	選択	○	○	○		本講義は、東金・山武を中心とする千葉県内の自然環境の保全及び、農業などの一次産業に関わる地域課題について、地域の様々な団体と連携し、実践的に取り組むことを通じて、課題発見力、課題解決力等を養うものである。2025年度は地域の農業の人手不足によるフードロス、耕作放棄による里山環境の消失や生物の絶滅、町おこしなどのテーマに取り組んでいる。			◎	○	○
40	全学部共通基盤科目群	域学共創プロジェクトJ	2	選択										
41	全学部共通基盤科目群	史学概論	2	選択					人間社会の様々な事象（事件、制度、文化等）が現在あるような形と内容になった因果関係を探るのが歴史学である。先ず、歴史を研究するのはどのような行為かを考える。事実と史実と真実の違いは何か。次に、日本以外の地域の歴史のなからテーマを選び、人類の歩みにおける因果律について考察したい。政治史を主としながらも、その裏にあるテクノロジー・経済活動や思想・宗教といった要因を重視して、人類社会の発展を概観する。	○				
42	全学部共通基盤科目群	日本史を学ぶ	2	選択					本科目は、日本の古代から中世、近世を経て、近代、現代へといった歴史の展開について、いくつかのテーマを設けて講義を行う。近代から現代にいたる政治史についての講義が多くなる予定であるが、社会史や文化史などのテーマも適宜取り上げたい。この受講によって、学生が、日本の歴史を学ぶ意欲をもち、今後の日本と世界のかかわりを考える力をつけることを目指す。	○				
43	全学部共通基盤科目群	アジア史概論	2	選択					地形・気候・植生・生態の面からユーラシア大陸と西太平洋地域を理解し、その上で東アジア地域について検討する。古代と中世については、社会経済史や文化史の側面に目を配り、中華文明と王朝制度の変遷を辿っていく。近世から近代は、ヨーロッパ勢力のアジア進出と「中国史の世界史への組み込み」の過程を丁寧に追っていききたい。現代については、中国・日本・アメリカ・ロシア・ヨーロッパ諸国の相互関係が中心的な話題となろう。	○				
44	全学部共通基盤科目群	現代史入門	2	選択					近現代史を体系的に理解することで現代社会の背景を読み解く力を養うことを目的とする。前近代と近代の違いや二大戦以前からの世界情勢を追い、政治・戦争に加え経済・社会の流れを意識して学ぶことで、国際情勢の変化と日本の位置づけを考察する視座を得る。講義を中心に進め、映像資料を交えつつ歴史的背景や基礎知識を解説する。各回の小課題を通して因果関係を整理し、歴史的事象を自ら説明できる力を培う。	○				
45	全学部共通基盤科目群	房総の文化と歴史	2	選択	○				本講義は、千葉県すなわち「房総」、及び東京都区部すなわち「江戸」の地理的、歴史的、文化的な枠組みや特色等について、原則として歴史的な時間軸に沿って学修する。併せて、各自が関心を持つ「地域」の特色や課題の掘り起しに必要な視点等も取り上げ、各自の自主的な資料調査等への取組みを通して、「地域」に関連する問題意識を深めていく。	◎				○
46	全学部共通基盤科目群	映像メディア史	2	選択					人類は映像というメディアをどのように利用、活用してきたのか。その歴史を追うと同時にメディアとしての映像はいかに発展してきたかを分析、考察する。	○				
47	全学部共通基盤科目群	音楽史	2	選択					本授業では、世界の音楽産業に最も大きな影響を与えてきたポピュラー音楽を対象とし、その歴史的展開を概説するとともに、ジャンルごとに取り上げる作品を鑑賞し、作品の特徴や成立した時代について学ぶことを目標とします。	○				
48	全学部共通基盤科目群	政治学入門	2	選択	○				戦後日本が一つのモデルとしたアメリカの民主政治がどのように機能するのかを学ぶことによって、政治学を学ぶのに必要な基礎知識を習得することを目指す。具体的には、第一に、民主政治における権力の意味を知り、権力抑止の必要性を理解する。第二に、アメリカの大統領制の特質を日本の議院内閣制と比較しながら把握する。第三に、現代アメリカ政治の分極化の背景を知り、今日の民主主義諸国における政治の混迷の原因を考える。	○				
49	全学部共通基盤科目群	経済学入門	2	選択	○				本講義は、経済学を初めて学ぶ学生を対象に、経済学の基本的な概念や思考方法を習得することを目的とする。経済学を学ぶと経済学的な視点から論理的な意思決定ができるようになる。講義では日常の出来事や時事ニュースも題材にして、経済の仕組みや専門用語をわかりやすく解説する。また、経営学との違いにも触れつつ、ビジネスの現場でも応用可能な経済学的思考法を紹介する。	○				
50	全学部共通基盤科目群	社会と経営	2	選択	○				企業経営とは、社会のニーズに対応する商品やサービスを開発し、それらの提供により価値提供を図りながら継続的、かつ発展的に活動してゆくことである。本講義は「企業価値」の側面からアプローチする新しいスタイルの経営学入門講座である。経営学の基本的知識の習得を到達目標とし、同時に社会と企業経営の関わりについて考察することを本講義のテーマとする。	○				
51	全学部共通基盤科目群	社会と会計	2	選択	○				本授業では会計学の基本的なテキストを用いた上で、以下の3点を目的に開講する。1) 財務諸表に企業の在り方や活動がどのように記載されるのかを大まかに理解する。2) 社会人にとって必携の書である日本経済新聞の企業欄や証券欄を読みこなせる会計の語彙力を身に付ける。3) より高度な会計学を学ぶ動機付けをする。授業はオンデマンド形式で行い毎回のテストと課題提出を求める。また期末テストとしてはレポートの提出を課す。	○				

観光学部カリキュラム・マップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 社会人として必要な倫理観を有し、観光および社会についての基本的な知識を修め、適切に理解し、活用することができる。
- DP 2 多様な背景や価値観、文化を持つ人々を理解する教養を身に付け、語学力や情報リテラシーを活用して、グローバルな視点を持って適切に行動することができる。
- DP 3 コミュニケーション能力を備え、他者理解の上に立つ共感力や合意形成力を発揮し、持続可能な社会の構築に向けて連携・協働することができる。
- DP 4 現場での経験を通して培ったやり抜く力と実践力をもって、主体的に課題発見と問題解決に向けて行動することができる。
- DP 5 生涯にわたって自己研鑽を重ね、社会の求める知識や技能を高めながら、観光の新しい価値の創出に努めることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
52	全学部共通基盤科目群	マーケティング論	2	選択	○				成熟した消費社会において、企業が顧客ニーズを捉え、価値を創造・提供し、競争優位を築くためのマーケティングの基礎を学びます。本授業では、マーケティング・ミックス（4P）、STP分析、製品ライフサイクルといった基礎知識はもとより、消費者行動の分析、製品、ブランド、価格、プロモーション、流通といったマーケティング戦略の実践面も具体的な事例(ケース)も紹介しながら習得し、問題解決能力を養います。	○				
53	全学部共通基盤科目群	広告戦略論	2	選択					広告業界の仕組みや役割を理解し、広告が完成するまでの流れを学ぶ。マスメディアを中心に、最新のデジタルメディアの動向や広告会社のコンテンツ戦略を考察する。広告代理店や制作会社など関連業界に関心を持ち、将来進路として志す学生に有益な知識と実践的視点を提供する。	○				
54	全学部共通基盤科目群	社会学	2	選択					「社会とは何か」という根本的な問いを出発点に、個人の総和を超えて存在する社会の特質を理解する視点を養うことを目的とする。日本人やアメリカ人といった集団に関する言説の背景を手がかりに、なぜそのような「社会像」が語られるのかを考察する。授業はテーマごとに連続講義を行い、必要な情報や知識を提供すると同時に、受講者自身が思考を深める機会を設ける。理解度確認やレポートを通じて、多様な視点から社会を捉える力を培う。	○				
55	全学部共通基盤科目群	社会調査	2	選択					この授業では、前半で社会調査に関する基礎的な知識を理解し、作業を通して実践的に調査法を学ぶ。その作業を通じて、複雑な社会の現実を思い込みにとらわれずに理解するために、客観的な情報を取り出す方法として社会調査という方法を体感する。誰もがデータを扱って、読み解く力が求められる時代にふさわしい力を習得する。	○				
56	全学部共通基盤科目群	法律学概論	2	選択	○				市民社会の基盤を支えるものとして、法律制度が重要な役割を担う。本講義は、受講者諸君がリーガルマインドを養成するため、法律に関する基礎知識を教養として身につけることは、講座の目標である。本講座は、憲法・民法・商法の学者が共同編著したテキストを活用し、法とは何かを初めに、法と裁判、日本の裁判制度と法解釈、さらにいくつか重要な実定法を紹介すると共に、法令制定のプロセスも紹介していく予定。	○				
57	全学部共通基盤科目群	日本国憲法	2	選択					日本国憲法の理解を通して国政全般の基本的枠組みを知る。その際、国の統治機構や地方自治制度、現行憲法が掲げる基本原理（たとえば、国民主権・基本的人権の尊重・平和主義等々）の考察をなし、その全体像の把握に務める。さらに、現行憲法制定の背景を探ることにより、	○				
58	全学部共通基盤科目群	著作権	2	選択					著作権や知的財産権の重要性にも触れ、自身の創造的な活動を社会で展開するための基盤を築く。	○				
59	全学部共通基盤科目群	社会福祉学A	2	選択					21世紀の福祉社会を生き抜くためばかりでなく、援助職にあるものにとって不可欠な人間観、死生観、社会観、福祉観が身につくように福祉社会のありようを深くとらえる視点から、福祉社会の思想、視点と枠組みおよびその発展について学んでいく。	○				
60	全学部共通基盤科目群	社会福祉学B	2	選択					本講義では、社会福祉の原理に関する内容を整理し、社会福祉の歴史、思想、哲学、理論、現代の社会問題とその構造的背景、福祉政策の基本的視点、ニーズ・資源を学ぶ。さらに、ソーシャルワークの専門職として個人、家族、集団、地域、社会、世界のウェルビーイングの実現・向上を目指すため、福祉政策の理論や理念、歴史に関する基本的内容と、今日的な展開、動向、課題について事実や現状を身に付けるようにする。	○				
61	全学部共通基盤科目群	経営情報基礎論A	2	選択	○		○		ICTの進展に伴い、組織における情報化が深化してきている今日の社会においては、われわれ一人一人がICT利活用のための知識やノウハウを修得することが求められている。本授業では、情報学の学びにおける基礎を学修する。産官学が連携して推す国家試験である「ITパスポート試験」で出題される大分類項目のうち、基礎理論、コンピュータシステム、技術要素に関する基礎的知識を身に付けることを目標とする。	○				
62	全学部共通基盤科目群	世界遺産のいま	2	選択					「世界遺産」は、日本では「観光」の視点から語られがちだが、本来は次世代に残したい地球上の「宝物」をバトンタッチするために制定された制度である。本講義は、「世界遺産を「地域文化」「保存と活用」「環境とSDGS」「観光資源」など多様な視点から分析し、「世界遺産はだれが決めるのか?」「世界遺産に登録されるメリットとデメリットは?」などの疑問に向き合い、その深い理念を理解することを目的とする。	◎				○
63	全学部共通基盤科目群	美学・芸術学	2	選択					「美」の理念（美しさ、立派さをうちに含む理念）という人間性の共通基盤に対する理解を深め、個々の人間の内に生きづく創造性を探ることをねらいとする。具体的には、美術・芸術作品の身近な経験をてがかりにその社会的・文化的・歴史的な存立条件を考察し、想像力を活かして過去の人々の同様の存立条件へと考察をひろげる。この作業を通して、美術・芸術一般の成立条件、さらには、「『美』とはなにか」という問いへと迫る。	○				
64	全学部共通基盤科目群	表象文化研究	2	選択					映画、アニメ、舞台、音楽、マンガなど、3分野にまたがる多様なメディア芸術作品を多角的に分析し、その表現意図、構成、社会的背景を深く考察する。具体的には、物語構造、視覚表現、音響デザイン、そして作品が生まれた時代背景や社会情勢がどのように影響しているかを深く掘り下げ、批評的思考力を養う。単なる作品鑑賞に留まらない深い考察を通じて、自身の制作活動に活かす。	○				
65	全学部共通基盤科目群	世界の文学	2	選択					「世界の文学」といえば、世界の料理を食べ歩く番組のように案内人の趣味を披歴する科目かと思われるかもしれない。しかし文学を味わい比べるためには、一個人の趣味を超えて比較の観点と基準を他者と共有しうるかを構想し、その構想を他者とともに吟味しなければならない。それゆえ「世界の文学」は、近代の小説、詩、戯曲のようなジャンルを鵜呑みにせずに文学とは何かを問い、文学の世界性をつかもうとする試みである。	○				
66	全学部共通基盤科目群	演劇研究	2	選択					演劇・ミュージカル・舞踊といった舞台芸術を対象に、その歴史・構造・表現方法を多角的に学び、舞台ならではの表現の力と社会的役割を理解することを目的とする。日本の伝統芸能から現代演劇、海外の主要作品やクリエイターまで幅広く取り上げ、作品や上演の背景を考察する。また、舞台表現に欠かせない俳優・演出家・ダンサーなど創り手の関わりを理解し、舞台芸術の魅力と可能性を検討する。映像資料や音楽資料も活用しつつ、受講者自身の体験や議論を通じて、舞台芸術を学ぶ基礎的視座を養う。	○				
67	全学部共通基盤科目群	古典芸能研究	2	選択					伝統芸能の一つである落語を題材に、その歴史と変容を学び、口承文化の継承や現代的意義を考察する。名作や新作落語の内容を分析し、日本人の価値観や社会観の理解を深めるとともに、実際の演じ方を体験することで、芸能の構造や表現を実感的に学ぶ。	○				
68	全学部共通基盤科目群	文学を読む	2	選択					本授業は、日本の近現代文学において人や社会がどのように描かれているか、表現と内容の両面からみていくことで小説を読む力を育む。履修者自身が作品の全編を読み通すことを重視し、比較的入手しやすい短編を取り上げる。作品について基礎的な解説を行ったうえで、文学理論の基礎的概念を導入しつつ、読みを例示する。内容については、生死、家族、運命といったテーマを設けて人間や社会のありようについて考える機会を提供する。	○				
69	全学部共通基盤科目群	教育学	2	選択					教師として子どもの発達を支援するには、どのような知識が必要となるのか、また、後半では、子どもの学習を促すには、動機づけやわかる授業をどうおこなうかを考えながら学習をすすめる。	○				

観光学部カリキュラム・マップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 社会人として必要な倫理観を有し、観光および社会についての基本的な知識を修め、適切に理解し、活用することができる。
- DP 2 多様な背景や価値観、文化を持つ人々を理解する教養を身に付け、語学力や情報リテラシーを活用して、グローバルな視点を持って適切に行動することができる。
- DP 3 コミュニケーション能力を備え、他者理解の上に立つ共感力や合意形成力を発揮し、持続可能な社会の構築に向けて連携・協働することができる。
- DP 4 現場での経験を通して培ったやり抜く力と実践力をもって、主体的に課題発見と問題解決に向けて行動することができる。
- DP 5 生涯にわたって自己研鑽を重ね、社会の求める知識や技能を高めながら、観光の新しい価値の創出に努めることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
70	全学部共通基盤科目群	心理学	2	選択					心理学は、人の意識や精神、それらの表れとしての行動を研究し、人間の心の理を科学的に解明しようとする学問である。本講では、科学として人の「こころ」の様々な側面を探求していくことをテーマに、人の意識や精神活動及び心のケアとサポートについての理解を深めることを目標とする。心理学に関する基礎的なテーマを取り上げ、身近な事象や経験を通してながら、関連する見識について解説をし、理解を深めていく。	○				
71	全学部共通基盤科目群	基礎の数学	2	選択					この授業では、採用テストSPI3の非言語分野、公務員試験の数的処理、情報科学に関連する数学の問題など、社会で必要とされる基礎的な数学的問題を扱う。出題された内容をすべて解けるようになることが到達目標である。授業はオンデマンド形式の録画を視聴しながら取り組む演習方式である。毎回、講師がその回のトピックと例題を説明した後、受講者は出題された演習問題を解き、講師がその解説を行う。毎回小テストを課す。	○				
72	全学部共通基盤科目群	ジェンダー論	2	選択					女性解放運動（フェミニズム）の歴史を学ぶことを通じて、ジェンダー研究がどのように発展してきたのかを理解する。そして現代社会において、ジェンダーに係る諸問題が極めて多様であることを様々な具体例を通じて学び、諸問題を解決していくための方策を各自が考案する。授業はオンデマンド形式で実施し、関連する資料を適宜示しつつ進めていく。	○				
73	全学部共通基盤科目群	根拠への問い-哲学へのとびら	2	選択					みづから問いを引き上げ、問いを展開していくことを、受講者ひとりひとりが学びとして進めて行く。毎回、自分自身を振り返って、気づいたことをまとめ、自分なりに問いを一步でも先に進めることを試みる。受講者自身、答えを出さなければいけない学び、教師と称する立場の者がすでに隠し持って、定めている正解を求め暗記して復唱する学びから、自らを解放し、いかに問いそのものを明確にできるかをこころみる。	○				
74	全学部共通基盤科目群	異文化適応論	2	選択	○	○	○		本授業は、異文化コミュニケーション学、第二言語習得及び社会心理学の視点から異なる文化環境での適応を考察する。まず、文化や適応などの基礎概念を導入し、異文化体験に伴う不適応の実態と要因を解説する。次に、カルチャーショックの諸相やU字曲線などの適応モデルを紹介し、自身を知ることの重要性も習得させる。最後に、適応の条件や成長のプロセスとしての意義を理解し、異文化適応力を養うことを目標とする。	○				
75	全学部共通基盤科目群	宗教学概論	2	選択					日本人は無宗教とされるが、寺院の数だけでもコンビニの総数を上回る。今日、多文化共生が叫ばれるが、文化と宗教の関係は密接である。本講義では、一見すると宗教とは無関係なアニメ・マンガなどからも「宗教」を問うていく。また、「宗教」からさまざまな現代問題にも迫っていく。現代人に必須な一般教養として「宗教」を講義する。	○				
76	全学部共通基盤科目群	倫理学概論	2	選択					道徳的指令集としての「倫理学」が、「善」や「正義」は個人や文化によって異なり明確な答えがないなどの理由によって否定されてきている現状を理解した上で、我々が日々倫理的に中立的であり得ているのかを再吟味する。その上で、哲学・倫理学の歴史的な英知を基に、21世紀における我々の社会・国家・世界における現実への顕在的・潜在的関与を自分自身で再構築し、それを日々の生活で実践していくことを追究する。	○				
77	全学部共通基盤科目群	スポーツ科学A	1	選択	○	○			スポーツ実技科目である。スポーツ種目のルールを理解し、ゲームができる技能を習得する。主に球技等のチームスポーツを実践することにより、スポーツの楽しさの体感、体力の向上、仲間とのコミュニケーションの拡大およびゲーム運営方法の習得を目標とする。さらに、スポーツあるいは体力づくりに関連するスポーツ科学の知識を学習し、安全かつ適切な方法で生涯にわたってスポーツ・運動を実践する習慣を身につけるようにする。	○				
78	全学部共通基盤科目群	スポーツ科学B	1	選択	○	○			スポーツ実技科目である。スポーツは、我々の生活を楽しく豊かなものにしてくれるが、スポーツを定期的に行う者は大学入学頃から減少し、その結果、学生のなかには青年期に必要な体力を喪失している者も存在するように思われる。本授業では主に球技などチームスポーツを実践することにより、スポーツの楽しさの体感、体力の向上、仲間とのコミュニケーションの拡大およびゲーム運営方法の習得の4点をねらいとして展開していく。	○				
79	全学部共通基盤科目群	しゃべりのスキルUp I	2	選択					社会生活やキャリア形成に不可欠な会話を多角的に養う。発声・滑舌、文章構成力、語彙力、雑談力、表現力などを段階的に学び、プレゼンや面接で説得力ある言葉を使える力を身につける。双方向型とオンデマンド型を組み合わせ、インプットとアウトプットを実践的に強化し、即戦力となる表現スキルを習得する。	○				
80	全学部共通基盤科目群	Drug Action Science	2	選択					Drug Action Scienceはくすりの効果とその働き方について、花粉症や胃痛に効くくすりなど日常使用するものを取り上げて学びます。しかし、くすりの使い方を誤ると私たちに悪影響をもたらすことも学び、くすりを正しく使用する理由を理解しましょう。漢方薬という日本の伝統医学に基づくくすりがあるけど、どのような時に服用するのかなどのテーマからくすりに関するリテラシーを高めていきます。	○				
81	全学部共通基盤科目群	症状に合わせた健康セルフケア	2	選択					日本の医療制度の基礎や調剤薬局、ドラッグストア、クリニック、病院などの医療施設について理解し、健康診断における検査値異常時の対応や身体に異変を感じた時のセルフメディケーションについて学ぶ。	○				
82	全学部共通基盤科目群	感染症とくすり	2	選択					近年、新型コロナウイルス感染症を始めとする感染症に対して改めて興味を持つ方が増えていますが、世の中には様々な情報が飛び交っていて、どれが正しい情報が分かりにくいのが現状です。本講義では、代表的な感染症を例に挙げ、病気になる仕組みについて学び、また、感染症にかからないようにするには、かかってしまったときにはどうすれば良いのかを理解することで、世の中にある感染症に関する様々な情報を吟味して身を守るための合理的な行動がとれるよう学習をすすめます。	○				
83	全学部共通基盤科目群	ハーブ・サプリメント・漢方薬	2	選択					日本では、生活習慣病（糖尿病、脂質異常症、高血圧など）などの慢性疾患の患者は年々増加している。生活習慣病を発症すると多くの場合、一生にわたり治療を継続することになり、QOL (quality of life) が低下すると考えられている。そのため、健康維持・増進や疾病の発症予防に関わる知識を習得し、その知識をもとに自らの健康を管理することが重要である。	○				
84	外国語科目群	Fundamentals of English I	2	選択					高校英語で学んだ知識を基盤にし、それを実際のコミュニケーション能力として発揮することを目指す。積極的な参加が求められ、ペアワークやグループワークを通して学習する。各モジュールの初めに目標を設定し、終了時に振り返りを行い、自律的な学習力を養う。テキストに関連するオンライン課題による予習・復習を定期的に行い、ライティング課題やTOEIC課題を行い、最終レポートを提出する。	◎				
85	外国語科目群	Fundamentals of English II	2	選択					Fundamentals of English Iで学んだ基礎を踏まえ、英語を使う自信と使う力をさらに広げることを目指す。授業では協働的な活動を多く取り入れ、ディスカッションや課題解決を通して表現力を磨く。オンライン課題による予習・復習を継続し、反復を通じて定着を図る。学期中には複数のライティング課題やTOEIC関連の練習を行い、最終的にレポートをまとめて提出する。	◎				
86	外国語科目群	Oral Fluency I	2	選択					Oral Fluency IIは、学生のスピーキング力、とくに会話やディスカッションの能力を高めることを目指す科目とする。英語で会話や議論を行う方法を学び、流暢さを養いながら幅広い会話ストラテジーを身につけることを目的とする。さらに、日常的な話題に関する新しい語彙や表現を習得し、英語での討論力を強化する。	◎				

観光学部カリキュラム・マップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 社会人として必要な倫理観を有し、観光および社会についての基本的な知識を修め、適切に理解し、活用することができる。
- DP 2 多様な背景や価値観、文化を持つ人々を理解する教養を身に付け、語学力や情報リテラシーを活用して、グローバルな視点を持って適切に行動することができる。
- DP 3 コミュニケーション能力を備え、他者理解の上に立つ共感力や合意形成力を発揮し、持続可能な社会の構築に向けて連携・協働することができる。
- DP 4 現場での経験を通して培ったやり抜く力と実践力をもって、主体的に課題発見と問題解決に向けて行動することができる。
- DP 5 生涯にわたって自己研鑽を重ね、社会の求める知識や技能を高めながら、観光の新しい価値の創出に努めることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
87	外国語科目群	Oral Fluency II	2	選択					Oral Fluency IIは、Oral Fluency Iで身につけた力をさらに広げるスピーキング・会話・ディスカッションの科目とする。ペアや少人数グループでのやり取りを通して積極的に発話の機会を持ち、語彙や会話ストラテジーを学び、リスニング練習も行う。継続的な練習によって表現力と理解力を伸ばし、履修後には自分の英語力にもっと自信を持てるようになる。	◎				
88	外国語科目群	TOEIC Preparation A	2	選択					この科目は、担当教員がTOEICテストの各セクションを解説し、受験時に役立つ様々な戦略を指導するものである。よく出される問題や一般的な文法事項についても説明する。TOEICの模擬テストを定期的の実施し、頻出する文法に慣れ親しむとともに、TOEICテストに応用可能なリスニングの方法を身につけることを目指す。	◎				
89	外国語科目群	TOEIC Preparation B	2	選択					この科目では、担当教員がTOEICテストの各セクションを解説し、受験をする時に役立つ様々な対策を指導する。頻出する問題や一般的な文法事項についても説明する。TOEICの模擬テストを定期的の実施して、頻出する文法に慣れ親しむとともに、TOEICテストに応用可能なリスニングの方法を身につけて網羅うことを目指している。	◎				
90	外国語科目群	TOEIC Preparation C	2	選択					この科目は、学生のTOEIC総合スコア向上を目的としている。TOEICの模擬テストを定期的の実施して、頻出する文法・語彙に慣れ親しむとともに、TOEIC試験に応用可能なリスニングの方法を身につけることを目指す。毎回、オンデマンド教材を配信するので、学生は教科書とオンデマンド教材に基づいて、課題とテストを完了する。通常回のみテスト、語彙テストのほか、期末試験も予定している。	◎				
91	外国語科目群	TOEIC Preparation D	2	選択					この科目は、学生のTOEIC総合スコア向上を目的としている。TOEICの模擬テストを定期的の実施して、頻出する文法・語彙に慣れ親しむとともに、TOEIC試験に応用可能なリスニングの方法を身につけることを目指す。毎回、オンデマンド教材を配信するので、学生は教科書とオンデマンド教材に基づいて、課題とテストを完了する。通常回のみテスト、語彙テストのほか、期末試験も予定している。	◎				
92	外国語科目群	English for Specific Purposes A	2	選択					This course focuses on developing students' ability and confidence to communicate their ideas and opinions in a clear and well-structured manner to a small audience. Students explore everyday topics, learn topic-based vocabulary, presentation language and sentence patterns, and ways of organizing ideas. As part of their assessment, students will be required to give presentations and submit reports on various topics.	○				
93	外国語科目群	English for Specific Purposes B	2	選択					This course focuses on developing students' ability and confidence to communicate their ideas and opinions in a clear and well-structured manner to a small audience. Students explore everyday topics, learn topic-based vocabulary, presentation language and sentence patterns, and ways of organizing ideas. As part of their assessment, students will be required to give presentations and submit reports on various topics.	○				
94	外国語科目群	English for Advanced Studies A	2	選択					This is a listening- and discussion-oriented integrated skills course, organized around four high-interest topics. Each unit has five steps: Listen and apply new strategies; Take notes; Discuss the lecture; and Assess your knowledge. Students prepare for and participate in discussions on the topics. Assessment is not only through production and participation, but also through written quizzes and tests.	○				
95	外国語科目群	English for Advanced Studies B	2	選択					This is a listening- and discussion-oriented integrated skills course, organized around four high-interest topics. Each unit has five steps: Listen and apply new strategies; Take notes; Discuss the lecture; and Assess your knowledge. Students prepare for and participate in discussions on the topics. Assessment is not only through production and participation, but also through written quizzes and tests.	○				
96	外国語科目群	English Skills for International Tourism	2	選択					本講義は、グローバル社会に必要な英語力の習得を目指す中級者向けの授業である。ツーリズム主要3部門のうち、主に「航空業」にフォーカスし、実際の業務や状況に応じたシーンに必要なツーリズムの用語や接客表現を学修することが目的である。授業では、航空業の業務シーンを再現したアクティビティを通じて、ツーリズムに必要なグローバルなコミュニケーション力を育成する。観光英語検定2級程度の力を習得可能。	◎				
97	外国語科目群	Reading and Writing for International Tourism	2	選択					本講義は、英語のReadingとWritingのスキル向上を目的とする中級者向けの授業である。特に、TOEIC(R)や英検等の資格試験におけるReading Sectionでの点数アップを目的とする。具体的には、語彙力・読解力のアップを目指すとともに、英語の4スキル（Listening, Speaking, Reading, Writing）にもリンクさせた英語力の向上を目指す。	◎				
98	外国語科目群	Discussion and Presentation in Tourism	2	選択					本講義は、ディスカッションとプレゼンテーションを通して、高度な英語力を身につける上級者向けの授業である。TOEIC400以上のスコアが望ましい。授業では、相手の話を聞きそれに対して自分の意見を、英語を用いて主張するような練習を重ね、英語による簡単な議論や交渉ができる力を育成することを目的とする。さらに英語によるプレゼンテーションを実施し、英語力のさらなる向上を目指す。	◎				
99	外国語科目群	English for Tourism A	2	選択					本講義は、初級と中級の2クラス編成の授業である。初級クラスは、観光の現場で使われる基礎的の用語や表現を学び、実践で役立つコミュニケーション力を養うことを目的とする。中級クラスでは、ツーリズム主要3部門のうち、主に「ホテル」の現場で使われる語彙や表現を体感的に身につけることを目的とする。初級クラスは「観光英語検定3級」、中級クラスは「観光英語検定3級または2級」の合格を目指す。	◎				○
100	外国語科目群	English for Tourism B	2	選択					本講義は、初級と中級の2クラス編成の授業である。初級クラスは、観光・旅行でよく使われる基礎的な表現や語彙・語句を中心に学修し、旅行シーンを再現しながら体感的に身につけることを目的とする。中級クラスは、「旅行業」にフォーカスし、旅行業における実際の業務シーンに必要な用語や接客表現を学修することを目的とする。初級クラスは「観光英語検定3級」を、中級クラスでは「観光英語検定2級」の合格を目指す。	◎				○
101	外国語科目群	中国語I	2	選択					初学者を対象とし、中国語の基本的な発音、語彙、文法項目、会話、練習問題等に取り組む。中国語の発音（ピンイン）と表記を重点的に学びながら、読む・聞く・話す・書くための基礎力を養う。毎回の授業で繰り返し発音練習を行い、基礎文法に関する理解を深め、会話練習を重ねることで、正確な発音と基礎的な表現力を着実に身につける。	○				
102	外国語科目群	中国語II	2	選択					中国語Iを履修した学生を対象とし、中国語の発音、語彙、文法項目、会話、練習問題を通じて学習を深める。基礎的な中国語の文法を学びながら、読む・聞く・話す・書くための基礎力をより強固にすることを旨とする。さらに日常生活において頻出する会話表現を積極的に取り入れ、実践的なコミュニケーション能力を養成する。また、中国語検定試験対策の指導を行う。	○				
103	外国語科目群	中国語III	2	選択					中国語IIを履修した学生を対象とする。中国語I・IIで習得した基礎的な単語や文法知識を復習しながら、新しい表現を徐々に加え、日常生活に頻出する会話表現を繰り返し練習することによって、効率よく中国語の運用力、コミュニケーション力を向上させることを目標とする。授業終了時点で中国語検定準4級あるいは4級の受験レベルに到達することを旨とする。	○				

観光学部カリキュラム・マップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 社会人として必要な倫理観を有し、観光および社会についての基本的な知識を修め、適切に理解し、活用することができる。
- DP 2 多様な背景や価値観、文化を持つ人々を理解する教養を身に付け、語学力や情報リテラシーを活用して、グローバルな視点を持って適切に行動することができる。
- DP 3 コミュニケーション能力を備え、他者理解の上に立つ共感力や合意形成力を発揮し、持続可能な社会の構築に向けて連携・協働することができる。
- DP 4 現場での経験を通して培ったやり抜く力と実践力をもって、主体的に課題発見と問題解決に向けて行動することができる。
- DP 5 生涯にわたって自己研鑽を重ね、社会の求める知識や技能を高めながら、観光の新しい価値の創出に努めることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
104	外国語科目群	中国語Ⅳ	2	選択					中国語Ⅲを履修した学生を対象とする。これまでに習得した語彙や文法を復習しつつ、新しい表現や文型を段階的に学び、日常生活や学習・仕事の場面で実際に中国語を運用できる会話力を伸ばすことを目標とする。実践的な会話練習やロールプレイ、リスニング活動に加え、簡単な作文の練習も取り入れ、聞く・話す・読む・書くの四技能をバランスよく向上させる。		○			
105	外国語科目群	韓国語Ⅰ	2	選択					ハングルの仕組みや基礎的な文法事項を理解し、自己紹介や挨拶表現、趣味や居場所など身近な話題について、簡単な会話や短い作文を行う力を養う。授業では繰り返しの練習を通して発音や表現に慣れ、基礎的なコミュニケーション能力を培うことを目標とする。		○			
106	外国語科目群	韓国語Ⅱ	2	選択					「韓国語Ⅰ」を履修した学生を対象とし、そこで学んだ内容を確実に復習した上で、さらに多様な表現や文法事項を習得する。授業では実際の会話練習や文章作成を通じて運用力を高め、より幅広い場面において適切にコミュニケーションを行える基礎を築くことを目標とする。		○			
107	外国語科目群	韓国語Ⅲ	2	選択					「韓国語Ⅰ」「韓国語Ⅱ」で学んだ内容を復習しつつ活用力を高め、基本語彙と文法をより豊かに使いこなすことを目指す。授業では多様な場面での会話や作文を通じて表現力を伸ばし、韓国語で自己実現を図る力を養う。また、ハングル能力検定4級以上の合格を一つの目標として学習を進める。		○			
108	外国語科目群	韓国語Ⅳ	2	選択					ハングル能力検定3級またはTOPIK3級以上の合格を一つの目標とし、中級レベルの韓国語能力を養成する。授業では身近な話題について支障なく会話や作文を行う力を確実にし、その上でより複雑な社会的場面にも対応できる表現力を育てる。さらに辞書を用いながら新聞記事や文学作品を読み解し、ニュース番組を理解する力を培うことを目指す。		○			
109	外国語科目群	スペイン語Ⅰ	2	選択					This is an introduction to Spanish language fundamentals. Students learn basic vocabulary, present tense verbs, and essential grammar structures. Focus on simple conversations, greetings, family, numbers, and daily activities. No prior Spanish knowledge required. Prepares foundation for continued study.		○			
110	外国語科目群	スペイン語Ⅱ	2	選択					This builds upon Spanish I foundations. Students expand vocabulary and learn irregular verb conjugations in the present tense. Emphasis on pronunciation and basic listening comprehension. Increased emphasis on speaking and listening skills through interactive exercises and basic conversations about familiar topics.		○			
111	外国語科目群	ドイツ語Ⅰ	2	選択					この科目では、ドイツ語初級に不可欠な文法事項（文タイプと動詞の位置・否定文・平叙文・疑問文・人称代名詞・動詞の現在人称変化・sein, haben・名詞の性・名詞格変化・人称代名詞格変化）を習得する。簡単な日常会話ができるようになるために、文法学習の進度に合わせて、ドイツ語での練習問題やパートナーとの会話練習を行う。同時に、ドイツ社会一般について広い関心をもつ。		○			
112	外国語科目群	ドイツ語Ⅱ	2	選択					この科目では、ドイツ語初級に不可欠な文法事項（動詞の規則変化・名詞の格変化・代名詞の格変化の復習に続き、不規則動詞の現在人称変化・名詞の複数形・否定冠詞・名詞の2格、3格）を習得する。簡単な日常会話ができるようになるために、文法学習の進度に合わせて、ドイツ語での練習問題やパートナーとの会話練習を行う。同時に、ドイツ社会一般について広い関心をもつ。		○			
113	外国語科目群	フランス語Ⅰ	2	選択					この授業はフランス語を学んだ経験のない学生を対象としている。基本的な語彙と文法を習得することを目的とし、自己紹介、日常生活における簡単な会話ができるようになることを目指す。聞く、話す、読む、書くの4技能を網羅し、総合的なフランス語の力を養う。コミュニケーションを重視したタスク中心の授業を行い、理解するだけでなく使えるフランス語を習得する。		○			
114	外国語科目群	フランス語Ⅱ	2	選択					本科目はフランス語Ⅰを修得した学生のみ履修できる。基本的なフランス語力をさらに広げ、深める意欲を持った学生のためのコースである。引き続き、基本的な語彙と文法を習得することを目指す。聞く、話す、読む、書くの4技能を網羅し、総合的なフランス語の力を引き続き養う。コミュニケーションを重視したタスク中心の授業を行い、理解するだけでなく使えるフランス語を習得する。		○			
115	外国語科目群	ハンガリー語Ⅰ	2	選択					初めてハンガリー語を学ぶ学生のための入門クラスである。ハンガリー語の基本的な文法と語彙を学びながら、日常会話の表現も身につける。授業では、必要に応じて英語も併用する。英語からハンガリー語へ、またその逆の翻訳練習も行うことで、ハンガリー語力だけでなく英語力も向上させる。また、「ランゲージジャー」の手法により自然な言語習得を目指すと同時に、他のヨーロッパの言語を使う経験も積む。		○			
116	外国語科目群	ハンガリー語Ⅱ	2	選択					「ハンガリー語Ⅰ」に続きハンガリー語を学ぶ学生のための入門クラスである。ハンガリー語の基本的な文法と語彙を学びながら、日常会話の表現も身につける。授業では、必要に応じて英語も併用する。英語からハンガリー語へ、またその逆の翻訳練習も行うことで、ハンガリー語力だけでなく英語力も向上させる。また、「ランゲージジャー」の手法により自然な言語習得を目指すと同時に、他のヨーロッパの言語を使う経験も積む。		○			
117	外国語科目群	ハンガリー語Ⅲ	2	選択					インターネット上の豊富なインフォメーション、テレビ番組、ラジオ番組を通して、現代ハンガリー文化、ハンガリーの観光、若者文化、音楽、食文化、ポップカルチャーなどを通して、ハンガリー語の基本文法と基本語彙のほか、日常会話も身につける。合わせて、英語からハンガリー語へ、ハンガリー語から英語への翻訳練習を行う。		○			
118	外国語科目群	ハンガリー語Ⅳ	2	選択					インターネット上の豊富なインフォメーション、テレビ番組、ラジオ番組を通して、現代ハンガリー文化、ハンガリーの観光、若者文化、音楽、食文化、ポップカルチャーなどを通して、ハンガリー語の基本文法と基本語彙のほか、日常会話も身につける。合わせて、英語からハンガリー語へ、ハンガリー語から英語への翻訳練習を行う。		○			
119	外国語科目群	ポーランド語Ⅰ	2	選択					本科目は2時間連続で行なう。原則として、毎週1時間目は、テキストの内容に従って新しい文法などについて解説する。2時間目は、1時間目に学んだ文法事項の練習や応用を中心とし、知識の定着を助ける。また、単なる語学学習ではなく、ポーランドの歴史や文化、ポーランド人の日常生活への理解を深められるよう、映像や画像などのさまざまな資料も活用しながらポーランドの魅力も紹介する。		○			
120	外国語科目群	ポーランド語Ⅱ	2	選択					本科目は2時間連続で行なう。原則として、毎週1時間目は、テキストの内容に従って新しい文法事項について解説する。2時間目は、1時間目に学んだ文法事項の練習や応用を中心とし、知識の定着を助ける。また、単なる語学学習に終わらず、ポーランドの歴史や文化、ポーランド人の日常生活への理解を深められるよう、映像や画像などのビジュアル資料なども活用しながらポーランドの多様な魅力の紹介に努めたい。		○			
121	外国語科目群	チェコ語Ⅰ	2	選択					チェコ語のアルファベット、発音、文法の初歩知識を習得する。語彙を広げ、日常表現を覚え、会話練習により、会話力の基礎を固める。ヒアリングを練習し、理解する・話す力を少しずつ身につける。前期終了時に簡単な文章や自己紹介をチェコ語で言える力を身に付ける。又、授業の中で言語だけではなく、DVDやCDを使いながら、チェコの文化、音楽、アニメなどについて学び、さらにチェコ語とチェコについての知識を深める。		○			

観光学部カリキュラム・マップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 社会人として必要な倫理観を有し、観光および社会についての基本的な知識を修め、適切に理解し、活用することができる。
- DP 2 多様な背景や価値観、文化を持つ人々を理解する教養を身に付け、語学力や情報リテラシーを活用して、グローバルな視点を持って適切に行動することができる。
- DP 3 コミュニケーション能力を備え、他者理解の上に立つ共感力や合意形成力を発揮し、持続可能な社会の構築に向けて連携・協働することができる。
- DP 4 現場での経験を通して培ったやり抜く力と実践力をもって、主体的に課題発見と問題解決に向けて行動することができる。
- DP 5 生涯にわたって自己研鑽を重ね、社会の求める知識や技能を高めながら、観光の新しい価値の創出に努めることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
122	外国語科目群	チェコ語Ⅱ	2	選択					正しい発音、文法の初歩知識を習得する。語彙を広げ、日常表現を覚え、会話練習により、会話力の基礎を固める。ヒアリングを練習し、理解する・話す力を少しずつ身につける。前期終了時に簡単な文章や自己紹介をチェコ語で言える力を身につける。又、授業の中で言語だけではなく、DVDやCDを使いながら、チェコの文化、音楽、アニメなどについて学び、さらにチェコ語とチェコについての知識を深める。		○			
123	外国語科目群	日本語Ⅰ	2	選択					この授業は、日本文化や社会への理解を深めながら、日本語による実践的なコミュニケーション力を養うことを目的とする。日常生活やニュースなどを題材に、生の日本語を読み、聞き、話し、書く活動を通じて、各回のCan-do目標を達成する。すべてのCan-doを達成することで、留学生生活をより充実させる力を身につける。		◎			
124	外国語科目群	日本語Ⅱ	2	選択					この授業は「日本語Ⅰ」に続き、日本での留学生活に必要な日本文化や社会への理解をさらに深めながら、日本語の実践的なコミュニケーション力を養うことを目的とする。初対面、食文化、音楽、旅行などの社会文化をテーマに、生の日本語を使って4技能を向上させる活動を行い、各回のCan-do目標の達成を目指す。特に話す力（会話・独話）の向上に重点を置き、自分の意思や考えを説明し、その理由を述べる力を育てる。		◎			
125	外国語科目群	日本語Ⅲ	2	選択					この授業は、日本語の運用能力が上級程度の学生を対象とし、「日本語Ⅱ」に続き、学部科目につながる日本語力の向上を目的とする。読む・聞く・書く・話すの4技能を通じて、文法・読解・聴解・語彙・文字を総合的に学び、学んだ知識を自分の言葉でまとめ、意見を述べる力を養う。特に話す力とディスカッション力の向上に重点を置き、ペアやグループでの活動を通じて双方向の理解を深め、思考力と表現力を高める。		◎			
126	外国語科目群	統合日本語Ⅰ	2	選択					この授業では、読む・書く・話す・聞くの4技能を統合した活動を通じて、大学生として必要な知識や教養を身につけ、思考力と表現力を高める。ペアやグループでの協働的な学習を通じて、批判的に考え、意見を述べ、議論しながら理解を深める。CLILの4つのC（内容、言語知識・言語使用、思考、協学）の視点を取り入れ、学習目標の明確化と振り返りを重ねることで、自律的な学習力と応用力を育成する。		◎			
127	外国語科目群	統合日本語Ⅱ	2	選択					この授業では、「統合日本語Ⅰ」に続き、読む・書く・話す・聞くの4技能を統合した活動を通じて、大学生として必要な知識や教養を身につけ、思考力と表現力を高める。ペアやグループでの協働的な学習を通じて、批判的に考え、意見を述べ、議論しながら理解を深める。CLILの4つのC（内容、言語知識・言語使用、思考、協学）の視点を取り入れ、学習目標の明確化と振り返りを重ねることで、自律的な学習力と応用力を育成する。		◎			
128	外国語科目群	統合日本語Ⅲ	2	選択					この授業は、「統合日本語Ⅱ」に続き、日本語の運用能力が上級程度の学生を対象とし、内容を通じて4技能（読む・聞く・書く・話す）を総合的に高めることを目的とする。SDGsや日本文化などを題材に、言語知識を自分の言葉でまとめ、意見を述べる力を養う。ペアやグループでの活動を通じて双方向の理解を深め、批判的に考える力を育てる。探求的な学びを重視し、発表や議論を通じて思考を深め、学びの成果をまとめる。		◎			
129	外国語科目群	日本語アカデミック・ライティング	2	選択					この授業は、アカデミックなライティング力を養うことを目的とする。日本の大学における一般的な日本語のレポートの書き方を学びながら、テーマについて考え、それをレポートにまとめる練習を行う。まず自分の関心に合わせてテーマを選び、必要な調査を行い、調べたことをもとに考察し、1つのレポートを完成させる。大学のレポートに求められる論理の立て方、資料の集め方、引用の方法も学ぶ。		○			
130	外国語科目群	日本語アカデミック・スピーキング	2	選択					この授業は、大学で求められるアカデミックなスピーキング力を養うことを目的とする。自分の考えをスライドを用いて口頭で発表する力を身につけるため、発表テーマの設定、考察や結論の構成、スライドと原稿の作成、発表時の話し方までを段階的に学ぶ。授業では、発表準備と練習を重ねながら、論理的に伝える力と表現力を高める。大学生として必要な発信力を育成し、主体的に意見を述べる力を養う。		○			
131	外国語科目群	社会と文化の日本語A	2	選択					この授業は、社会や文化に関する題材を通じて日本語の運用力を高めることを目的とする。新聞や雑誌の記事を精読・速読し、語彙や文法を習得しながら社会的テーマを理解する。映像作品や漫画を用いた議論や発表で表現力を養い、科学技術に関する情報を扱うことで論理的に説明する力を育成する。読解・議論・論文作成を柱とし、4技能を総合的に伸ばすことを目標とする。		○			
132	外国語科目群	社会と文化の日本語B	2	選択					この授業は、日本の社会や文化に関する映像や動画を題材に、日本語の運用能力を高めることを目的とする。授業では、映像作品から表現や語彙を学び、ペアワークやグループワークを通じて議論や発表を行う。批判的思考力や問題解決能力を鍛え、他者の意見を理解しながら自分の考えを伝える力も養う。これらの活動を通じて、社会や文化を理解しつつ積極的にコミュニケーションを取れる日本語力を身につけることを目標とする。		○			
133	外国語科目群	専門日本語(福祉・介護)	2	選択					この授業は福祉、とりわけ介護・保育の現場を目指す学生を対象とした科目である。現場の1日の流れを理解し、必要な日本語や専門表現を見につける。介護・保育現場のコミュニケーションを分析し、モデル会話を練習するほか、ペアワークやグループワークで意見を交換し、互いに学びながら実践力を高める。学生は自ら情報を調べ整理し、福祉に関する記事の読解や議論を通して語彙・文法・表現を習得することを目標とする。		○			
134	外国語科目群	専門日本語(ホテル・観光)	2	選択					この授業は、将来接客業に携わりたい学生を対象とし、ホテル・観光業における接客コミュニケーション、マナー、非言語行動を学ぶ。空港や観光名所などの場面を想定し、観光ガイドが使う日本語表現を習得する。学習者は観光情報を自ら調べ、整理し、自分の言葉で簡潔に述べたり議論したりする中で、専門語彙や表現力を身につける。日本のおもてなしを理解し、実践できる力を養うことを目標とする。		◎			
135	外国語科目群	専門日本語(文学・評論)	2	選択					この授業は、日本文学や現代文章の読解を通して日本語表現・語彙・文法を体系的に学び、日本人の思考や価値観、文化理解を深めることを目的とする。ペア・グループ活動や発表、レポート作成を重視し、段落要旨や作品テーマの把握、感想文作成を通して、読解力と論理的に意見を述べる力を養成する。毎回の予習復習と発表準備を通じて主体的学習態度を確立し、継続的な言語運用能力の向上を目指す。		○			
136	外国語科目群	専門日本語(異文化コミュニケーション)	2	選択					この授業は、文化背景の異なる人々とのコミュニケーションについて学び、異文化理解に必要な態度や心構えを養うことを目的とする。異文化コミュニケーションの理論とエクササイズを通じて、自文化と他文化に関する情報を学び、自己の気づきを深める。ディスカッションや活動を通して、開かれた心と積極的な参加姿勢を育てる。文化やコミュニケーションの過程を問い直しながら、日本語の4技能も高める。		○			
137	外国語科目群	日本語プロジェクト教育A	2	選択					この授業は、学習者が自ら設定したテーマについて資料収集・フィールド調査・分析を行い協働的なディスカッションや発表、レポート作成を通して課題解決力と高度な日本語運用能力を養成する。インタビューや統計資料の活用、相互評価などのアクティブラーニングを重視し、主体的・探究的学習を通して社会と接続した実践的な表現力を育成する。		○			

観光学部カリキュラム・マップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 社会人として必要な倫理観を有し、観光および社会についての基本的な知識を修め、適切に理解し、活用することができる。
- DP 2 多様な背景や価値観、文化を持つ人々を理解する教養を身に付け、語学力や情報リテラシーを活用して、グローバルな視点を持って適切に行動することができる。
- DP 3 コミュニケーション能力を備え、他者理解の上に立つ共感力や合意形成力を発揮し、持続可能な社会の構築に向けて連携・協働することができる。
- DP 4 現場での経験を通して培ったやり抜く力と実践力をもって、主体的に課題発見と問題解決に向けて行動することができる。
- DP 5 生涯にわたって自己研鑽を重ね、社会の求める知識や技能を高めながら、観光の新しい価値の創出に努めることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
138	外国語科目群	日本語プロジェクト教育B	2	選択					この授業は、日本の社会や文化を地域との交流や体験活動を通して探究し、テーマ設定から調査・分析・発表までの一連のプロジェクト学習を行う。インタビューやフィールドワーク、協働的ディスカッション、成果の可視化や相互評価などのアクティブラーニングを取り入れ、実践的な日本語コミュニケーション能力と社会理解力の向上を図る。		○			
139	外国語科目群	ビジネス日本語I	2	選択					この授業は、日本の企業文化への理解と、ビジネス場面で求められる日本語コミュニケーション力の向上を目的とする。敬意表現や依頼・謝罪・断りなどの機能表現、会話文、前置き表現、語彙、文書の読み書きを含む4技能を総合的に学ぶ。ケーススタディやディスカッションを通じて、発話力・表現力を高め、論理的に意見を述べる力を養う。実践的な活動を重視し、積極的な参加が求められる。		○			
140	外国語科目群	ビジネス日本語II	2	選択					この授業は、「ビジネス日本語I」で培った基礎力をもとに、グローバル人材として活躍するための知識と技法を実践的に身につける。将来、日本企業や海外の日系企業への就職を希望する学生が、ビジネスの現場で通用する日本語能力、社会人基礎力、異文化調整能力を総合的に修得する。アポイント取得、会議参加、クレーム対応、交渉などの場面を扱い、語彙・敬意表現を学ぶ。協働活動を通じて企業文化の理解と実践力を高める。		○			
141	外国語科目群	キャリア日本語(就職)	2	選択					この授業は、将来日本で働くことを希望する学生を対象とし、社会人として必要な日本語コミュニケーション力と社会人基礎力を養うことを目的とする。会社内の会話文やケーススタディを通じてビジネス場面での対応力を高め、履歴書や面接、企業分析など就職活動に必要な日本語表現を学ぶ。毎回のスピーチやディスカッション、プレゼンテーションを通じて、自分の考えを論理的に伝える力と協働的に学び合う姿勢を育てる。		○			
142	外国語科目群	キャリア日本語(進学)	2	選択					この授業は、大学院進学を希望する学生を対象とし、進学に必要なスキルと論文作成力を体系的に身につけることを目的とする。研究計画書や小論文、学術レポートの書き方を学び、参考文献リストや引用、概要の整理方法も習得する。これまでの知識を個人化し、専門分野について語り、論じる力を育てる。大学院の探し方や資料の取り寄せ方法なども扱い、読む・書く・話す・聞くの4技能を通じて、アカデミックな表現力を高める。		○			
143	キャリア形成科目群	キャリア形成A	1	選択					本演習は、1年生が大学生活を始めるにあたり、「基本的な学ぶ力」の育成を目的とする。自己理解を深め、自らを客観的に捉える力を養うとともに、正確な情報を読み取る読解力や、論理的な文章を構成する文章力を身につける。また、自己認識を言語化するセルフマネージメントの実践、読解力の向上、Microsoft365などを活用した情報収集と整理の方法、さらに図書館の効果的な利用方法について学ぶ。	○				◎
144	キャリア形成科目群	キャリア形成B	1	選択					本演習は、社会に対する視野を広げ、論理的・批判的思考力を養うことを目的とし、国内外の社会情勢に目を向けながら、情報社会において不可欠な思考力を身につける。具体的には、基本的なフレームワークの構造と役割を理解し、それを活用して自身の考えを整理し、視点や切り口の幅を広げる。さらに、社会的テーマや身近な課題を題材に、論理的に構造化された意見を表現する力を育成する。留学生支援クラスも開講する。	○				◎
145	キャリア形成科目群	キャリア形成C	1	選択					本演習は、社会人生活を有意義かつ戦略的に過ごすためのライフデザインを学び、社会理解と表現力の向上を目的とする。具体的には、国内産業や観光産業など多様な業界への理解を深めるとともに、ビジネスにおける考え方や企業の人材観を通じて、社会で求められる人材像への理解を深める。さらに、時事的なテーマを用いたディスカッションやプレゼンテーションを通じて、論理的な思考力と伝達力を養う。	○				◎
146	キャリア形成科目群	キャリア形成D	1	選択					本演習は、自己理解・自己認識の重要性を学び、自らを客観的に分析する力を養うことを目的とする。具体的には、自分の強みや弱みを把握し、将来の進路選択に向けた行動プランを立てる力を養う。また、職業や業界への理解を深めながら、社会人基礎力を大学生活の中で意識的に身につけることを目指す。あわせて、幅広い教養とコミュニケーション力を育み、3年次以降のキャリア形成に備える。	○				◎
147	キャリア形成科目群	キャリア形成E	1	選択					本演習は、3年次から本格化する就職活動に向けた準備として社会の構造や働き方の多様性を踏まえ、将来のキャリアを主体的に捉えて進路選択に活かすことを目的とする。授業では演習などを通じて、自分と社会との関わりについて理解を深めるとともに、社会の仕組みや国内外の情勢に目を向け、論理的・批判的思考力を養う。また、自らの意見や考えを分かりやすく伝える力を育成する。	○				◎
148	キャリア形成科目群	キャリア形成F	1	選択					本演習は、就職活動における最新の動向を理解し、自分に合った会社や進路を選択するための方法を身につけることが目的である。授業では社会人基礎力として求められる発信力・傾聴力・共感力を鍛えるとともに、自分で考える力を養い、日本社会における労働環境や企業組織への理解を深める。これらを通じて、主体的な進路選択と社会への適応力を高める。	○				◎
149	キャリア形成科目群	キャリア形成G	1	選択					本演習は、就職活動に向けて最新の動向を理解し、自分に合った会社や進路を選択する力を養うことを目的とする。授業では、社会人基礎力として求められる発信力・傾聴力・共感力を高めながら、論理的・批判的に考える力を育成する。また、日本の社会構造や労働環境、会社組織への理解を深め、一般常識や時事問題を通じて、社会で求められる力を身につける。	○				◎
150	キャリア形成科目群	キャリア形成H	1	選択					本演習は、1年後の自分を具体的にイメージし、将来の目標に向けた行動プランを立てる力を養うことが目的である。これまでのキャリア形成の学びを踏まえ、自己分析を通じて自身の強みや課題を明確にし、改めて社会人基礎力を理解する。また、国内外の社会情勢に継続的に目を向けながら、自らの考えを客観的に捉え、分かりやすく発信する力を高めることで、表現力と社会理解を深めていく。	○		○		◎
151	キャリア形成科目群	キャリア形成I	1	選択					本講義は、毎回、異なる企業や団体から講師を招き、各業界の現状や課題、将来の展望について直接話を聞くことで、社会や産業の変化に対する理解を深めることが目的である。講師の具体的な経験や事例を通じて、働くことへの具体的なイメージを形成する。さらに複数の企業の視点に触れることで、自身の適性や興味を再認識し、将来のキャリア選択に向けたヒントを得ることを目指す。	○		○		◎
152	キャリア形成科目群	キャリア形成J	1	選択					本演習は、自己分析を通じて自分の強みや弱みを理解し、将来の希望進路を明確にする力を養うことが目的である。業界・企業研究を進めることで、志望する企業や進路先を具体的に絞り込み、社会で求められる人材像への理解を深める。また、グループワークやプレゼンテーションを通じて表現力を高め、面接対策として自己紹介や4年間の学びのストーリーづくりなど、実践的なスキルを身につけることを目指す。	○		○		◎
153	キャリア形成科目群	キャリア形成K	1	選択					本演習は、自己分析を通じて自身のキャリアを深く考察し、将来の希望進路を明確にする力を養う。就職活動に向けては、グループワークやプレゼンテーションを通じて表現力を高めるとともに、企業が求める人材像への理解を深め、自分に合った企業選びにつなげる。また、面接対策として自己紹介や4年間の学びのストーリーづくりなどを実践的に学び、印象に残る自己PRや志望動機の作成力を身につける。	○		○		◎

観光学部カリキュラム・マップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP1 社会人として必要な倫理観を有し、観光および社会についての基本的な知識を修め、適切に理解し、活用することができる。
- DP2 多様な背景や価値観、文化を持つ人々を理解する教養を身に付け、語学力や情報リテラシーを活用して、グローバルな視点を持って適切に行動することができる。
- DP3 コミュニケーション能力を備え、他者理解の上に立つ共感力や合意形成力を発揮し、持続可能な社会の構築に向けて連携・協働することができる。
- DP4 現場での経験を通して培ったやり抜く力と実践力をもって、主体的に課題発見と問題解決に向けて行動することができる。
- DP5 生涯にわたって自己研鑽を重ね、社会の求める知識や技能を高めながら、観光の新しい価値の創出に努めることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
154	キャリア形成科目群	キャリア形成L	1	選択					本演習は、社会的責任と生涯学習の重要性を理解し、組織論や倫理観を実践に活かす力を養うことを目的とする。学んできた知識と経験とともに、最新の就職・進路情報を正確に把握し、将来の自分像と進路の方向性を照らし合わせながら、具体的な行動に移す力を身につける。さらに、個人・グループ面接練習を通じて、自らの魅力を限られた時間内的に的確に表現する力を高めることを目指す。	○		○		◎
155	キャリア形成科目群	キャリア形成M	1	選択					本演習は、社会的責任と生涯学習の重要性を理解し、組織論や倫理観を実践に活かす力を養うことを目的とする。キャリア形成の集大成として、これまでの学びを踏まえ、社会人として必要な実践的な力を身につけることを目指す。特に、社会人基礎力の向上、多様なトピックに対するグループワークを通じた発言力の育成、ビジネスマナーの習得を重視し、卒業後の進路と社会での活躍に向けた準備を行う。	○		○		◎
156	キャリア形成科目群	キャリア形成N	1	選択					本演習は、これまでのキャリア形成で培った知識や経験を振り返り、自らの市場価値を見直すとともに、社会人として必要な力を実践的に身につけることを目的とする。講義と演習を通じて、修得した知識の活用や分析力を高め、自分の意見を的確に伝える力を養う。さらに、日本の企業文化への理解を深めながら、社会人として求められるマナーや一般常識を実践形式で習得し、社会への円滑な移行を図る。	○		○		◎
157	キャリア形成科目群	キャリア形成O	1	選択					本演習は、卒業までに取り組むべき課題を理解し、社会人としての責任や行動規範を実践的に学ぶことが目的である。これまでのキャリア形成の学びを振り返り、自らの市場価値を見直すとともに、「新たな価値づくり」の視点から企業や組織のあり方を考察する。さらに講義・演習・プレゼンテーションを通じて、社会人基礎力やビジネスマナーを高め、実社会への移行を支援する。	○		○		◎
158	キャリア形成科目群	観光実務	2	選択		○			本講義は、観光産業における基本的なビジネスマナーを身につけることを目的とする。サービス業の中心であるホテルに焦点を当て、接客や業務に必要なマナー・スキルを学修する。授業では、幅広い観点からホテル産業を理解することで、観光業界全体を俯瞰する視野を養う。また、観光ビジネス人材としての基本的な知識とホスピタリティ精神を身につけ、今後の進路選択にも活かせる力の育成を目指す。		◎			○
159	キャリア形成科目群	国内研修	2	選択		○			本研修は、国内観光地を視察し、その現状や課題を体験的に学ぶことが目的である。人口減少が進む日本において、観光は地域を支える重要な手段とされているが、コロナ禍による大きな影響も受けた。本研修を通じて、感染収束後に観光再生を模索する地域や観光振興に取り組む先進的事例、観光ビジネスの取り組みなどを視察し、観光資源や地域づくりなどの現場を体感することで、観光の可能性と課題への理解を深めることを目指す。	○	◎			
160	キャリア形成科目群	海外研修	2	選択		○			本研修は、海外における主要な観光地での視察や体験を通して、海外観光事情への理解を深めることが目的である。語学力の重要性や異文化理解を体感し、グローバルな視点への意識を高めるとともに、アジアをはじめとする国際社会で活躍できる素地を養う。主に韓国・釜山市の東西大学校と連携し、韓国の観光地を実地に視察し、観光実情や世界遺産の運用、リブランディングの事例を学ぶ。	○	◎			
161	キャリア形成科目群	観光実務実習A	2	選択	○	○			本実習は、「仕事の厳しき・楽しさ」と「企業で活躍すること」を、実際の就業体験（SS期間）を通して学ぶことが目的である。将来の就職志望先を見据え、現場を通して様々な業務に触れ、社会で必要とされる力がどのようなものを体験する。また、この経験を活かし、就職後のアンマッチを避けることも実施意義の一つである。参加者は与えられた業務に対して真摯に向き合うことの重要性を、現場体験を通して理解する。		○	◎	○	
162	キャリア形成科目群	観光実務実習B	6	選択		○			本実習は、国内外での約2カ月間のホテルインターンシップを通して、高い職業意識と実践力を育成することが目的である。具体的には、S2期間、原則実働時間240時間以上を実習に充て、受入先企業のソフトに応じた業務をおこなう。国内では提携先ホテルにおいて就業体験を実施する。海外ではマレーシアの提携大学であるUTARにて観光英語を学び、ホテルでの就業体験を実施する。		○	◎	○	
163	キャリア形成科目群	観光実務実習C	16	選択		○			本実習は、台湾の提携大学と連携して実施する長期就業体験プログラムであり、観光人材としてのスキルアップを目指すことが目的である。台湾における6カ月間の就業体験を通して、国際的な視野と実践力を身に付け、将来、観光産業をはじめ、幅広い業界で戦力となり得る力の育成を目指す。なお、本実習は観光学部、台北圓山大飯店、台北城市科技大学による三者協定のもとづくプログラムとして実施する。		○	◎	○	
164	キャリア形成科目群	観光フィールド演習A	2	選択	○	○			本演習は、観光ビジネスの現場を実際に視察し、観光ビジネスが社会にもたらす経済的・社会的価値を実地で学ぶことを目的とする。具体的には「ホテル」を訪問し、観光業に携わる「人」とその「仕事」に直接触れる機会を通じて、ホテル業界の社会的な役割や、顧客に提供される高い価値について理解を深めることで、自身の将来のキャリア形成にもつなげていくことを目指す。	○		◎		
165	キャリア形成科目群	観光フィールド演習B	2	選択	○	○			本演習は、観光ビジネスの現場を視察し、観光ビジネスが社会にもたらす経済的・社会的価値を実地で学ぶことを目的とする。具体的には「エアライン」と「鉄道」の2つの業界を訪問し、観光業に携わる「人」とその「仕事」に直接触れる機会を通じて、エアライン業界および鉄道業界の社会的な役割や、顧客に提供される高い価値について理解を深めることで、自身の将来のキャリア形成にもつなげていくことを目指す。	○		◎		
166	キャリア形成科目群	デジタルメディアA	2	選択		○		○	本演習は、観光分野で必要とされる情報発信力と実践的なICTスキルを身につけることを目的とする。具体的にはAdobe Illustratorを用い、地図やチラシ、ポスターなどの紙媒体資料を作成する技術を学び、ICTの応用力、特に画像編集を中心としたコンテンツ制作スキルの習得を目指す。さらに、そのスキルを活かし、観光地のブランディングに活用するなど、将来の観光人材として必要な表現力を養う。		◎			○
167	キャリア形成科目群	デジタルメディアB	2	選択		○		○	本演習は、観光分野で必要とされる情報発信力と実践的なICTスキルを身につけることを目的とする。具体的にはAdobe Premiere Proを用い、観光のさまざまな場面で求められる動画コンテンツの制作技術を学び、ICTの応用力、特に動画編集に関する表現スキルの習得を目指す。さらに、そのスキルを活かし、観光地の魅力を映像で伝えるなど、将来の観光人材として必要な情報発信力を養う。		◎			○
168	専門基礎科目群	観光と社会	2	選択	○				本講義は、観光に表れる多様性、ジェンダー、宗教、文化といったテーマを社会学的視点から捉え、理解を深めることを目的とする。授業では、グローバル化が進む現代社会において必要とされる「異文化理解力」を身につけ、多様な価値観を尊重し、他者への理解を深めることを目指す。あわせて、観光に関わるグローバルな課題を自ら発見し、その解決に主体的に取り組む力を育て、新たな観光価値を創造する力を養うことも目標とする。	◎				○
169	専門基礎科目群	観光人類学	2	選択					本講義は、観光を文化人類学の視点から捉え、観光が文化に与える影響を理解することを目的とする。人の移動によって生まれる文化接触や、文化変容、伝統文化の再生や維持といった側面について、具体的な事例を通して学ぶ。授業では、文化人類学の基本とフィールドワークを学び、いくつかのキーワードをもとに観光人類学への理解を深め、特にエスニック・ツーリズムを例に、観光における他者と文化の関係性について学修する。	◎				○

観光学部カリキュラム・マップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 社会人として必要な倫理観を有し、観光および社会についての基本的な知識を修め、適切に理解し、活用することができる。
- DP 2 多様な背景や価値観、文化を持つ人々を理解する教養を身に付け、語学力や情報リテラシーを活用して、グローバルな視点を持って適切に行動することができる。
- DP 3 コミュニケーション能力を備え、他者理解の上に立つ共感力や合意形成力を発揮し、持続可能な社会の構築に向けて連携・協働することができる。
- DP 4 現場での経験を通して培ったやり抜く力と実践力をもって、主体的に課題発見と問題解決に向けて行動することができる。
- DP 5 生涯にわたって自己研鑽を重ね、社会の求める知識や技能を高めながら、観光の新しい価値の創出に努めることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
170	専門基礎科目群	観光行動論	2	選択					本講義は、観光者がどのような動機で観光行動を起こすのかを、心理学や社会学といった学術的な視点から考察する力を養うことが目的である。授業では、まず「人はなぜ旅をするのか」という問いから出発し、観光ニーズの多様性や、インバウンド観光の回復に必要な条件について学ぶ。具体的な事例を用いて、国や地域ごとの観光者のニーズや動機の違いを理解し、観光客を誘引する商品開発に活かせる視点を養うことを目指す。	◎				○
171	専門基礎科目群	観光地理概論	2	選択	○				本講義は、地理学の視点から観光を捉えるための基礎知識を習得し、観光地形成への理解を深めることを目的とする。観光地の類型や国内観光資源の概況を把握しながら、自然景観、国立公園、伝統文化、産業観光などから多様な観光地の特性を体系的に理解する。このような具体的な事例を通じて、観光地を形成する要素を理解し、観光地理に対する総合的な視野を養う。	◎				○
172	専門基礎科目群	観光政策	2	選択					本講義は、観光分野に関わる政策と法律の基礎を学び、観光政策の全体像とその仕組みを理解することを目的とする。国と地方自治体、民間の関係、行政と司法の役割、観光業界への法的規制など、多角的な視点から観光政策を捉える。前半は観光関連産業における法律や規制を扱い、後半では広域的な観光関連政策について学ぶ。憲法や行政法の基本に触れつつ、法律の構造と根拠の理解も目指す。	◎				○
173	専門基礎科目群	観光ビジネス基礎	2	選択	○				本講義は、観光産業に関する基礎的な知識を体系的に学ぶ導入科目であり、旅行・航空・ホテルの3つの主要分野を通じて、観光産業の構造や実務内容を学ぶことを目的とする。各分野の業務やサービスの仕組みに触れながら、観光業界における役割やビジネスモデルを理解する。あわせて、業界の商習慣や人材像、観光が果たす社会的・経済的役割についても学び、将来の進路選択やキャリア形成につなげることを目指す。	◎				○
174	専門基礎科目群	観光まちづくり概論	2	選択	○				本講義は、観光まちづくりを理解するための導入授業であり、観光を通じて地域が活性化するための視点を理解することを目的とする。授業では、「観光」と「まちづくり」概念の互恵関係、着地型観光やDMOの役割、人口減少時代における持続可能な観光のあり方などを多角的に学修する。また、地域資源の価値を見出し、観光を通じて地域課題を解決する「地域プランナー」としての考え方を養うことを目指す。	◎				○
175	専門基礎科目群	観光マーケティング	2	選択					本講義は、観光産業における基本的なマーケティングの視点と手法を身につけることを目的とする。観光ビジネスに関する基礎科目として、商品・サービス企画、価格設定、流通、販売促進など、マーケティングの基本概念を学び、ビジネスとしての観光への理解を深める。授業では、特にエアライン業界のマーケティング戦略における具体的な事例の分析を通じて、実践的なマーケティングの視点を養う。	◎				○
176	専門基礎科目群	観光と芸術	2	選択					本講義は、観光と文化の関係性を理解し、芸術が観光振興や地域再生に果たす役割への理解を目的とする。授業では、美術館の絵画、舞台芸術、ストリートアート、コンテンツリアートなどの多様な芸術表現が、観光とどのように関わっているかを学修する。さらに、茶道や浮世絵、陶磁器といった日本の伝統芸術についても体験型観光の視点から理解することで、インバウンド観光への深め、芸術を観光資源として活用する力を養う。	◎				○
177	専門基礎科目群	Tourism and Arts	2	選択					This course examines how art and culture support tourism. Students explore global and Japanese art forms and learn how they are used to enhance visitor experiences and promote cultural tourism.	◎				○
178	専門基礎科目群	観光と自然資源	2	選択					本講義は、観光と自然資源との関係を理解し、持続可能な観光の在り方に対する理解を深めることを目的とする。都市生活においても自然環境の影響は避けられず、人間活動はさまざまな環境問題と密接に関わっている。授業では、観光における自然観光資源の多様性と価値に触れながら、その適切な利用や管理手法について学ぶとともに、人間生活と自然との関係を見つめ直し、今後の観光行動の変容についても考える。	◎				○
179	専門基礎科目群	観光と文化財	2	選択					本講義は、建築・絵画・工芸・史跡などの文化財を中心に、観光との関わりを学び、文化遺産への理解を深めることが目的である。文化財は観光資源であると同時に、地域の誇りやアイデンティティを担う存在でもある。熊本城や首里城などの再建が地域の希望とされるように、文化財は「モノ」以上の価値を持つ。授業では国内外の事例を交えつつ、文化財の保護と活用、観光との調和について、文化を巡る諸相に対する理解を深める。	◎				○
180	専門基礎科目群	観光と食	2	選択					本講義は、観光と食、食文化、そしてそれを支える農漁業や農山村との関係について理解を深めることが目的である。食は観光の魅力を高める重要な要素であり、地域の特性を反映する文化でもある。授業では各地の食文化とともに、地域資源としての農漁業の役割や、食を活用した観光・地域振興の事例を学ぶ。また、食文化の継承や環境問題など食をめぐる現代的課題にも触れ、持続可能な観光との関係性についての理解を深める。	◎				○
181	専門基礎科目群	観光メディアリテラシーA	2	選択	○			○	本講義は、観光におけるメディアの役割と影響を理解し、情報を正しく受け取る力を養うことを目的とする。授業では、ガイドブックやパンフレットなどの紙媒体、テレビ番組やSNSの映像コンテンツ、インターネット上の旅行情報など多様な観光メディアを取り上げ、それらの特性や背景にある意図、ガイドライン、表現規制などを学ぶ。コンテンツを批判的に読み解く力を養い、メディア情報に対する適切な理解力と判断力を養う。		◎			○
182	専門基礎科目群	観光メディアリテラシーB	2	選択	○			○	本講義は、観光メディアの最先端事例を通じて、デザイン思考、DX、AI、デジタルマーケティングの活用などについて理解を深める。授業では、課題を発見し、創造的に解決するデザイン思考の重要性を理解し、観光コンテンツの企画や情報発信への応用力を身につける。さらに観光メディアに関するキャリアについての理解を深める。観光メディアの進化と可能性を多角的に捉え、観光の未来を主体的に考える力を養う。		◎			○
183	専門科目群(観光学)	ニューツーリズム	2	選択	○				本講義は、従来の観光形態と「ニューツーリズム」が掲げる新たなコンセプトの違いを理解することが目的である。ニューツーリズムは観光庁が推進するテーマ性の高い体験型観光であり、環境・農村・健康・食・産業など多様な形態がある。授業では事例を通じて商品化の実態を学び、地域資源を活かした観光開発の方法を考察する。観光による地域活性化の可能性と課題を理解し、持続可能で責任ある観光のあり方を考える力を養う。	◎				○
184	専門科目群(観光学)	New Tourism	2	選択					This course introduces New Tourism, focusing on themed experiential travel. Students explore styles and case studies to understand regional revitalization through sustainable, responsible tourism.	◎				○
185	専門科目群(観光学)	観光ビジネスマネジメント	2	選択	○				本講義は、観光ビジネスにおける経営管理の基本を学び、採算管理・組織運営・リスクマネジメントの視点を身につけることが目的である。授業では、観光の即時性という特性から、収益性向上に対する財務・収支管理の重要性や、サービス品質向上に対して人材のモチベーションを高める組織運営の重要性、リスクマネジメントを学修し、経営資源としてのヒト・モノ・カネ・情報を有効活用し、企業価値を高める方法への理解を深める。	◎				○

観光学部カリキュラム・マップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 社会人として必要な倫理観を有し、観光および社会についての基本的な知識を修め、適切に理解し、活用することができる。
- DP 2 多様な背景や価値観、文化を持つ人々を理解する教養を身に付け、語学力や情報リテラシーを活用して、グローバルな視点を持って適切に行動することができる。
- DP 3 コミュニケーション能力を備え、他者理解の上に立つ共感力や合意形成力を発揮し、持続可能な社会の構築に向けて連携・協働することができる。
- DP 4 現場での経験を通して培ったやり抜く力と実践力をもって、主体的に課題発見と問題解決に向けて行動することができる。
- DP 5 生涯にわたって自己研鑽を重ね、社会の求める知識や技能を高めながら、観光の新しい価値の創出に努めることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
186	専門科目群(観光学)	旅行ビジネス	2	選択	○				本講義は、日本および世界の旅行業の仕組みを中心に学び、旅行業が提供するサービスの構造や機能について理解を深めることが目的である。授業では、観光・帰省・業務など多様な移動ニーズに対応する旅行業の役割を踏まえ、マーケティングや経営戦略、人材採用の考え方を通じて、観光ビジネスに必要な基礎知識を学修する。観光立国を支える産業としての旅行業の重要性と課題を考察し、将来の進路選択や国際交流への貢献につなげる。	◎				○
187	専門科目群(観光学)	ホテルビジネス	2	選択	○				本講義は、ホスピタリティ・ビジネスの中核であるホテル業への理解を深めることが目的である。ホテル業の歴史と現状を踏まえ、社会的役割や経営価値、組織構造、人材育成、資本戦略、企業価値向上などの事業経営と、日々の運営に関する業務やシステムを学ぶ。さらにサステナブルな視点からのホテル産業の未来について考える。利用者視点ではなく運営側の視点からホテルビジネスの仕組みを理解することを旨とする。	◎				○
188	専門科目群(観光学)	Accommodation Business	2						This course explores hotel business fundamentals, including operations, management, service quality, hospitality, and sustainability, with a focus on industry structure and future development.	◎				○
189	専門科目群(観光学)	エアラインビジネス	2	選択	○				本講義は、エアラインビジネスを多面的に学ぶことを通じ、エアライン業務や人流・物流についての理解を深めることを目的とする。授業では、航空産業全般の構造や経営環境、業務実態、安全・リスク管理、事業戦略、マーケティングなどを、具体的事例を交えながら体系的に学修する。さらに人流・物流の観点、そして観光産業全般との関係性から航空ビジネスの社会的役割への理解を深めることを目指す。	◎				○
190	専門科目群(観光学)	観光交通	2	選択					本講義は、観光における交通の役割とその多様性を理解することを目的とし、鉄道や高速道路を利用した事業、人の流動、地域活性化について学修する。授業では高速道路、バス、自動車、自転車、船舶などの交通機関と観光との関係を多角的に学ぶ。特に鉄道の産業構造や経営戦略、高速道路の地域振興機能、その他の関連事業の展開などを通じて、交通インフラが観光や地域活性化に果たす役割への理解を深める。	◎				○
191	専門科目群(観光学)	イベント・ブライダルビジネス	2	選択					本講義は、ブライダルを切り口に、ホスピタリティ産業への理解を深めることを目的とする。授業ではホテルやホール、専用施設で開催される各種イベントを事例として紹介する。特にブライダルについては、歴史的背景、実務の流れ、広報・営業戦略などを多角的に取り上げ、産業としての特性と観光との関係性を理解し、観光ビジネスにおけるイベント・ブライダルの実践的知識と基礎的な思考力の修得を目指す。	◎				○
192	専門科目群(観光学)	アジア観光研究	2	選択					本講義は、アジア諸国の観光に関する基礎的知識を学び、観光資源の特性や活用への理解を深めることを目的とする。中国・台湾・韓国・香港などの東アジア、シンガポール・マレーシア・タイなどの東南アジアを中心に、各国の歴史・文化・経済的背景を踏まえた観光の在り方を学ぶ。また、訪日観光の視点からインバウンド上位国・地域の観光客特性と動向を分析し、国際観光交流の変化とインバウンド観光の重要性について理解を深める。	◎				○
193	専門科目群(観光学)	欧米観光研究	2	選択					本講義は、欧州及び米国の歴史的・文化的背景を踏まえ、観光特性と発展過程を理解することを目的とする。ヨーロッパにおける観光の経済的・社会的・環境的側面を分析し、観光の将来像を考察する。さらにアメリカの観光事情についても歴史・文化の視点から理解を深める。観光インフラと社会経済の発展との関係を検証し、各都市の観光資源や文化的魅力を分析することで、欧米観光の本質とその国際的意義を理解する。	◎				○
194	専門科目群(観光学)	観光まちづくり事例研究	2	選択		○			本講義は、観光まちづくりの実践的手法を具体的事例を通じて学び、地域活性化に向けた戦略的視点を養うことを目的とする。授業では、観光政策と住民の主体的活動との連携によるまちづくりの在り方について、観光DX、インバウンド推進、産業観光、災害復興などの事例から分析する。授業は基礎知識の確認、戦略の整理、事例研究プレゼンテーションの三部構成とし、受講者は発表を通じて、成功要因と課題を多角的に検討する。	◎				○
195	専門科目群(観光学)	地域観光	2	選択					本講義は、観光を通じて地域の価値を再発見し、その土地ならではの文化・歴史・自然・産業などの観光資源を理解することを目的とする。地域の「らしさ」や物語性に着目しながら、各地の観光資源をテーマ別に学ぶ。祭り、伝統工芸、自然景観、食文化、アート、文化遺産など幅広い事例を取り上げ、観光資源としての魅力と課題を探究する。実例から地域の個性と観光の関係を考察し、観光による地域活性化の可能性を学ぶ。	◎				○
196	専門科目群(観光学)	観光地経営	2	選択	○				本講義は、観光地を経営的視点から捉え、観光地域づくり法人（DMO）を中心とした地域経営の実践理論を理解することが目的である。観光地を構成する多様なステークホルダーとそのガバナンス構造を理解し、経済・社会・環境のバランスを考慮した持続可能な観光地経営について学ぶ。地域住民との協働を重視しながら、観光地の価値向上に向けた戦略的な取り組み事例を通じて、観光地経営における多様な実践への理解を深める。	◎				○
197	専門科目群(観光学)	地域デザイン	2	選択	○				本講義は、観光における「デザイン」の役割を広義に捉え、観光体験の創出や地域ブランディングとの関係を理解することが目的である。建築やインテリアにとどまらず、地域文化・人材・モノやコトを含む多様な要素がどのようにデザインされ、地域の魅力やブランド価値を形成するのかを理解する。実践的な事例を通じて、地域ブランディングに関わる職能やその担い手像を学び、観光地ブランディングに資する仕事の可能性を考察する。	◎				○
198	専門科目群(観光学)	観光メディア制作A	2	選択	○	○		○	本演習は、地域の魅力を観光メディアの視点から発掘し、発信するスキルの養成を目的とする。具体的にはフリーペーパーの制作を通じて、新しい価値の創造を目指す。授業では、Adobe Illustratorなどのデザインツールを活用し、チラシや冊子のレイアウト・デザインを実践的に学修する。地域の魅力を引き出す編集・構成力と、視覚的に伝えるデザイン力の両方を養いながら、実際に形にするプロセスを体験する。		◎			○
199	専門科目群(観光学)	観光メディア制作B	2	選択	○	○		○	本演習は、映像メディアを活用できる人材の育成を目指し、動画撮影の基本的スキルの習得を目的とする。授業では、ドローン、GoPro、360度カメラ、スマートフォンなどの撮影機材を用いて、特徴的な映像撮影を行う。主な撮影対象はキャンパス風景とし、受講者自身の視点から魅力的な映像表現を追求する。撮影後は、Adobe Premiere Proを使用してキャンパス紹介映像の制作を目指す。		◎			○
200	専門科目群II(ゼミ研究・実践)	観光プロジェクトA	2	選択	○	○	○		本演習は、履修生が主体的に課題解決に取り組むPBL型授業である。地域社会や企業が抱える課題を発見し、その解決に向けたプロセスを通じて、企画力・遂行力・マネジメント力・合意形成力を養うことを目的とする。授業ではエアライン・ホテルをテーマとして扱い、実際に成田国際空港およびホテル日航成田へのフィールドワークを実施する。事前説明・現地見学・グループワーク・発表を行い、課題設定と解決策の立案に取り組む。			◎	◎	○
201	専門科目群III(ゼミ研究・実践)	観光プロジェクトB	2	選択	○	○	○		本演習は、履修生が主体的に課題解決に取り組むPBL型授業である。地域社会や企業が抱える課題を発見し、その解決に向けたプロセスを通じて、企画力・遂行力・マネジメント力・合意形成力を養うことを目的とする。授業では、クラフトビールをテーマに、地域活性化に貢献する仕組み作りを目指す。ブランディング、SNSマーケティング、イベント運営を実践し、クラフトビールを魅力的な地域資源として育てる手法に取り組む。			◎	◎	○

観光学部カリキュラム・マップ

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP 1 社会人として必要な倫理観を有し、観光および社会についての基本的な知識を修め、適切に理解し、活用することができる。
- DP 2 多様な背景や価値観、文化を持つ人々を理解する教養を身に付け、語学力や情報リテラシーを活用して、グローバルな視点を持って適切に行動することができる。
- DP 3 コミュニケーション能力を備え、他者理解の上に立つ共感力や合意形成力を発揮し、持続可能な社会の構築に向けて連携・協働することができる。
- DP 4 現場での経験を通して培ったやり抜く力と実践力をもって、主体的に課題発見と問題解決に向けて行動することができる。
- DP 5 生涯にわたって自己研鑽を重ね、社会の求める知識や技能を高めながら、観光の新しい価値の創出に努めることができる。

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

便覧掲載順番	科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	アクティブラーニング型授業	PBL型授業	高度なDX	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5
202	専門科目群II(ゼミ研究・実践)	観光プロジェクトC	2	選択	○	○	○		本演習は、履修生が主体的に課題解決に取り組むPBL型授業である。地域社会や企業が抱える課題を発見し、その解決に向けたプロセスを通じて、企画力・遂行力・マネジメント力・合意形成力を養うことを目的とする。授業では、阪急交通社との包括連携協定に基づき、秋田県への観光ツアー達成に取り組む。東北地方の観光資源調査、ツアー企画立案・発表のほか、商談会への参加を通じて旅行業務の現場で必要なスキルを学ぶ。			◎	◎	○
203	専門科目群II(ゼミ研究・実践)	地域プランニング	2	選択	○	○	○		本演習は、千葉県の観光振興をテーマに、地域資源を活用した観光まちづくりの企画・提案力を養うことを目的とする。授業はグループディスカッションを中心に進め、webによる地域資源の調査、観光入込状況の分析、県および市町村の観光政策の理解を通じて、千葉県内のツアー企画と地域活性化案を立案し発表する。これにより、企画力・協働力・観光プランニングの基礎力を身につけることを目指す。			◎	◎	○
204	専門科目群III(ゼミ研究・実践)	観光メディア制作C	2	選択		○		○	本演習は、「観光メディア制作A」の応用編として、観光振興や地域活性化に寄与するメディア制作の実践を通じて、新たな観光価値を創出するスキルの習得を目的とする。授業では、地域観光の促進に貢献できるグッズ、チラシ、マップ、看板などのデザイン制作を行い、観光メディアの視点から地域を盛り上げる方法を探る。また、地域を支える人材に求められるスキルを理解し、地域人材としての成長を目指す。		◎			○
205	専門科目群III(ゼミ研究・実践)	観光メディア制作D	2	選択		○		○	本演習は、「観光メディア制作B」の応用編として、高度な動画撮影・編集技術を活用し、観光地の魅力を映像で発信する力を養うことを目的とする。授業では「地域の魅力の再発見」「観光資源の掘り起こし」「心象風景」などをキーワードに、グループで撮影計画の立案から機材の運用、編集までを実践し、ドキュメンタリー映像などの制作を通じて、観光分野における映像クリエイターとしての素養を身につける。		◎			○
206	専門科目群III(ゼミ研究・実践)	観光ゼミナールA	2	選択		○			観光ゼミナールAは、研究・プロジェクト・制作の出発点となるゼミナールである。学生は自らの関心に応じてゼミを選択し、担当教員の指導のもと、研究テーマの設定や課題の発見、調査・分析の方法を学びながら主体的に研究活動を進める。ゼミは「研究探究」「課題解決」「メディア制作」の3タイプに分かれ、卒業課題として卒業論文・卒業研究・卒業制作のいずれかを提出する。			○	◎	○
207	専門科目群III(ゼミ研究・実践)	観光ゼミナールB	2	選択		○			観光ゼミナールBは、研究・プロジェクト・制作の出発点となるゼミナールである。学生は自らの関心に応じてゼミを選択し、担当教員の指導のもと、研究テーマの設定や課題の発見、調査・分析の方法を学びながら主体的に研究活動を進める。ゼミAを修得した学生は、研究テーマやプロジェクトを継続し、担当教員の指導のもとで活動をさらに深めていく。			○	◎	○
208	専門科目群III(ゼミ研究・実践)	観光ゼミナールC	2	選択		○			観光ゼミナールCは、これまでのゼミ活動を踏まえて研究・プロジェクト・制作をさらに発展させる。学生は担当教員の指導のもと、研究テーマやプロジェクト、制作の具体化を進めるとともに、卒業研究・卒業制作の方向性を明確にし、必要に応じて卒業論文の執筆について検討する。卒業論文を選択する学生は、必ず指導教員と相談し、研究の進め方を確認することが求められる。			○	◎	○
209	専門科目群III(ゼミ研究・実践)	観光ゼミナールD	2	必修		○			観光ゼミナールDは必修科目であり、これまでのゼミ活動の集大成として位置づけられる。学生はこれまでに取り組んできた研究やプロジェクトの成果をもとに、卒業研究または卒業制作を完成させ、提出する。卒業論文を選択する学生は「卒業論文指導」を履修し、論文の執筆を進める。ゼミDでは、観光分野における専門的な知見と実践力を統合し、卒業課題としての成果物を仕上げることを目指す。			○	◎	○
210	専門科目群III(ゼミ研究・実践)	卒業論文指導	2	選択					卒業論文指導は、観光ゼミナールAから継続して取り組んできた研究活動の集大成として、卒業論文を執筆する学生を対象に開講される科目である。履修生は、ゼミ担当教員の指導のもとで研究内容を精査し、「卒業論文規定」に基づいて論文の構成・執筆・提出を行う。卒業論文の完成に向けて、研究の深化と論理的な表現力の向上を図るとともに、観光分野における専門的な知見を論文としてまとめることを目指す。					◎
211	特設科目群	日本語(言語知識)	2						この授業は、日本語能力試験N1合格を目指す上級者向けの試験対策科目である。文字・語彙・文法に関する知識を習得し、毎回の小テストを通じて定着を図る。問題解答の方略やストラテジーを学び、高得点での合格を目指す。また、学んだ知識を活用し、文章を読んだり書いたり話したりする力を養うことで、学部での学びにも応用できる運用力を身につける。試験対策と実践力の両面から日本語力を高めることを目的とする。					
212	特設科目群	日本語(読解・聴解)	2						この授業は、日本語能力試験N1合格を目指す上級者向けの試験対策科目である。読解・聴解に関する問題の解答方略やストラテジーを学び、高得点での合格を目指す。また、学んだ知識を活用し、文章を読んだり書いたり話したりする力を養うことで、学部での学びにも応用できる運用力を高める。試験対策と実践力の両面から、日本語力を総合的に伸ばすことを目的とする。					
213	特設科目群	日本語A	2						この授業は、日本語能力試験N2の言語運用力を目指す中上級者レベルの指定学生・交換留学生向けの科目である。文法・読解・聴解・文字・語彙を総合的に学び、日本語力の底上げを図る。特に口頭産出に重点を置き、話す力の向上を目的とする。話す・読む・書く・聞くの4技能をバランスよく習得し、学んだ知識を実際に使える力へとつなげる。発表やディスカッションを通じて、表現力と運用力を高める。					
214	特設科目群	日本語B	2						この授業は、日本語能力試験N2の言語運用力を目指す中上級者レベルの指定学生・交換留学生向けの科目である。文法・読解・聴解・文字・語彙を総合的に学び、日本語力の底上げを図る。特に文法に重点を置き、話す・読む・書く・聞くの4技能をバランスよく習得する。様々なテーマを通じて、自分の考えを形成し、仲間との対話やふり返りを通して表現力を高める。発表やディスカッションも行き、実践的な運用力を養う。					
215	特設科目群	日本語C	2						この授業は、日本語能力試験N2の言語運用力を目指す中上級者レベルの指定学生・交換留学生向けの科目である。特に文字・語彙に重点を置き、話す・読む・書く・聞くの4技能を総合的に学び、日本語力の底上げを図る。N1へのステップアップも視野に入れる。学んだ知識を活用し、発表やディスカッションを通じて表現力を高め、意見をレポートにまとめる力を養う。					
216	特設科目群	日本語D	2						この授業は、日本語能力試験N2の言語運用力を目指す中上級者レベルの指定学生・交換留学生向けの科目である。特に聴解に重点を置き、自然なスピードの会話やニュースを聞き、話の流れや要旨、登場人物の関係を理解する力を養う。聴解を中心に4技能を総合的に学び、日本語力の底上げを図る。学んだ知識を活用して発表やディスカッションを行い、最終的に自分の意見をレポートにまとめることで、実践的な運用力を高める。					
217	特設科目群	日本語E	2						この授業は、日本語能力試験N2の言語運用力を目指す中上級者レベルの指定学生・交換留学生向けの科目である。特に読解に重点を置き、文章の構造や要点を的確に把握する力を養う。文法・聴解・文字・語彙も含めて総合的に学び、日本語力の底上げを図る。4技能をバランスよく習得し、知識を実際に使える力へとつなげる。学んだ内容を活用して発表やディスカッションを行い、最終的に自分の意見をレポートにまとめる。					